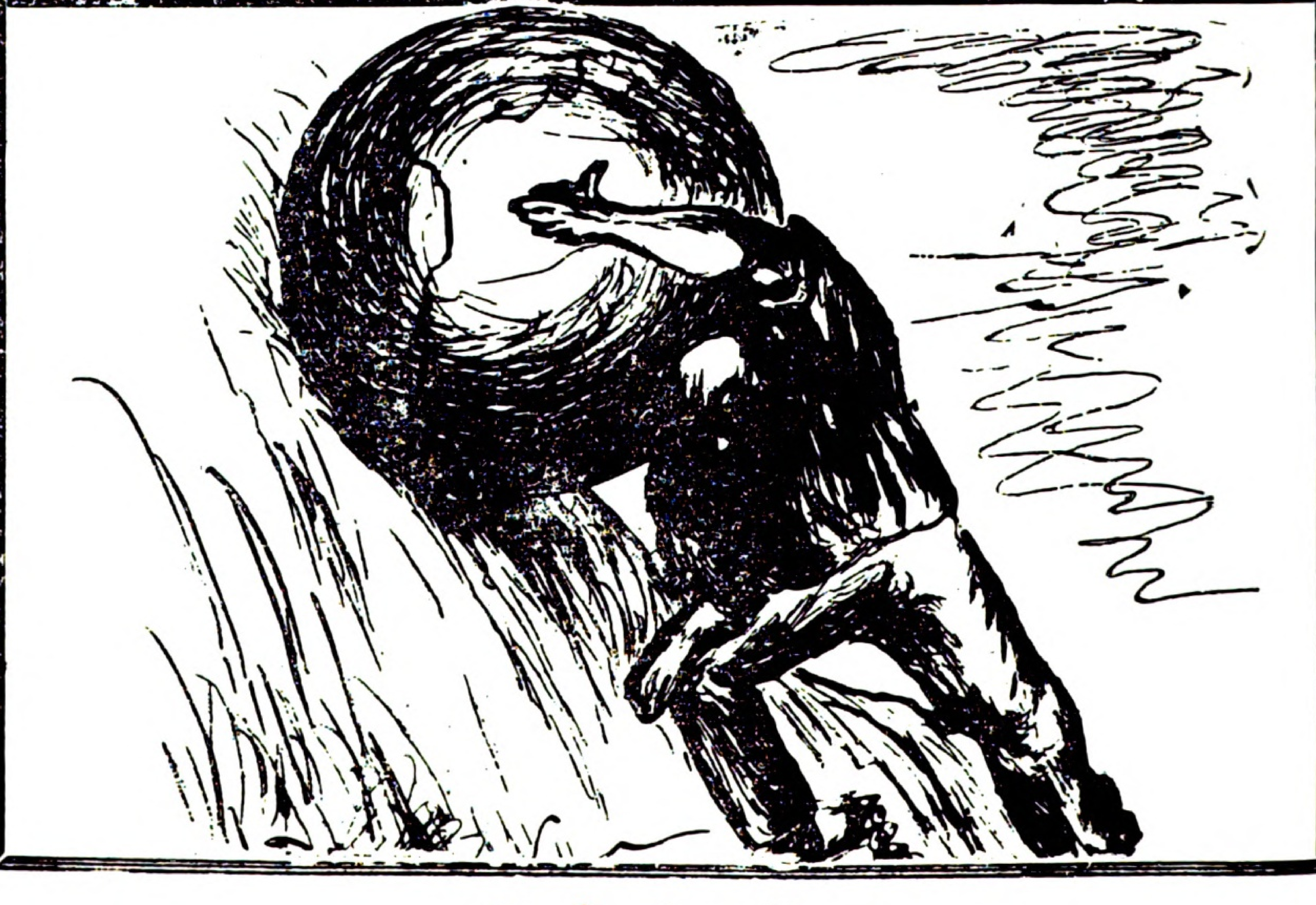
大正十二年一月二十日第三種郵便物認可

戰闘雜誌

進め

主幹　田口運藏

卷頭言……レニンから日本の同志への傳言
レニンの逸話から……山川均
水平運動の傾向と批判……木篠長兵衛
青年運動の方向……大川勘助
反動運動ご我等の覺悟……田口運藏
農民と社會主義……松原元治
普選ご政黨問題……鎌田安之助
社會運動ご官憲の取締……布施辰治
農村の危機と小作運動の使命……岩崎哲
震災好景氣論ご其の矛盾……高橋龜吉
遅れたる海上の勞働運動……吉田隆
入獄中ご出獄後の感想……堺利彦、田所照明、小岩井淨、川內唯彦、中曾根源和
五監通信……浦田武雄



一部金十錢

政治運動研究の會を組織したい

―同意の人はスグ申込んで下さい―

無產階級の政治運動は、政府の普選聲明に促されて、曲りなりにも現實の問題となつた。我々の政治運動に關する考察は一步進んで、如何にして最も有效にそれを行ふかの問題に移らなければならぬ時となつた。卽ち、理論的研究の方面では政治形態の問題とか、政策內容の問題など、事實的研究の方面では、政治運動に關係ある、經濟上、社會上、心理上の諸實情とか、他の政治的勢力と無產階級との錯綜など、何れも徹底して研究を仕上げなければならぬ。

殊に私等は、階級的政治運產の主要場面は街頭にあると信じて居る。此の考へが否定せらるべきものでない限り、街頭政治行動の、發生と發展との過程や、それを組織化し恒常化する手段樣式など、こゝにも重要なる研究項目は橫はつてゐる。

是等の、研究を進める爲に全國に涉つて一つの協同團體を作りたい。仕組みや仕事は大體左の如きものを考へてゐる。

一、誰でも會員となれる。

二、會員の數人集れる所に細胞を組織する。

會員と細胞とがすべての仕事の主體である

三、中央に事務係を置く。

事務係は當分進めでやる

四、會員及び細胞は研究をすべき問題を考へそれを事務係に通信する。

これが研究上の活動の始まりである

五、事務係はそれを整理して各會員及び細胞に送る。

六、會員及び細胞は受取つた問題に對し、資料を集めたり意見を定めたりして事務係に送り返す。

七、事務係はそれを又整理して、こゝに一段の研究が遂げられる。之を各會員及び細胞に報告する。

八、右の方法を絕へず反覆して行く、

此の規則のやうなものは、今後やつてゐる內に自由に變化して行くであらう、通信費を各員の負擔とすれば、別に會費は要らない、

無產階級の政治運動は、普選の音響に驚いて飛び出した政黨粗製濫造などの他に、もつと底力のこもつた行き方がなければならぬ、そうして十年位は、後の事もはつきり考慮に入れた方針の下に進まなければならぬ、經濟運動は昔てブローカーの喰物になつた政治運動を、オッポウチュニストの喰物にしてはならぬ、併し、それ等の爲めには、先づ政治運動に關し根本的なる諸概念を確立する必要があるがその爲めには何と言つても完全な研究を通過しなくてはならぬ。

此のやうな仕事は、實はもつと早くから着手してゐなければならなかつた、今となつては、一生懸命急速力で進むの他はない。

用意の諸君は至急申込んで下さい四五十人も出來たらスグ始める。

假事務所　大阪進め社

斜木軍吉

地方の座談會を復活する

地方では小さな集會を開き、それへ申込みに應じて進め社から人を送る計畫を夏の初めに發表したら十四五の申込があつて、七月と八月とにその內の五六を果した、九月後の約束にしたのもあつたが、あの地震がやつて來た。

雜誌もやつと足取りを立て直したし農村も大分ヒマになつたからあの計畫を復活したい、それも時節柄、政治運動に關する研究を中心として行かうと思ふどこからでも、言ふて來て見て下さい、出來るだけ應じる。進め社は人材大いに乏しいから、外部に應援して貰ふ約束をしてある、農民運動社や建設者とも連絡がある。

經費は、往復の旅費はこちらで何とかする、次に所をそちらで工夫してくれゝばいゝ。

支局募集

本誌も既に創刊以來滿一周年を經過した。社會主義雜誌一年の苦鬪は仲々筆や口では盡されない。

本社はこの『進め』の滿一周年を記念する爲、一個年間の同人の奮鬪を更により大く意義づける爲、今回大々的に全國から支局を募集する。

而して支局は政治運動研究會の細胞の一部面を擔當して欲しい。希望の人は本社會計係宛申込を乞ふ。

進め社

講演會や講習會も開きたい

雜誌の方が少し手がスケば講演會や講習會も開く積りで、一寸準備も進めてゐる、關西の方では、學術的た違つた講習會が、大學以外では殆んど行はれて居ないから三月と四月との二回大阪と京都でやつて見る積りである。其他地方から會場の都合さへつけてくれれば、講師をどし〳〵送つていつでもやります。地方の同志諸君の御盡力を望む。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

戰闘雜誌

進め

第二年 第二號
大正十三年二月

◇萬國の勞働者團結せよ◇

レーニンから日本の同志への傳言

一九二二年一月十七日極東大會がモスコーに開かれた。二十一日に、極東各國の代表者の數名が選ばれてクレムリンに於いてレニンと會見することが出來た。日本からの代表として片山と私と他一人であつた。私等が日本の狀態を語つた後に、レニンが口を開いて次のことを語つたのである。（田口）

◆自分は、日本に關した多くの智識を有たない。政治經濟に就いての報告も手もとにはない。併し、これだけの事は言へる。我々の先達でありその當時の首領であつたマルクスは『英國の資本制度を倒壞するに非ずんば、歐洲に起る全ての革命運動は單なるコップの中の小波にしか過ぎない。』と言ふたが、自分は此言葉を極東の形勢に當てはめたい。乃ち日本の軍國主義を打破するに非ずんば、印度の獨立も支那朝鮮の民族運動も單なる地方的騷擾に過ぎぬであらう。

◆亞米利加に於る愛國論者のジョン、スパルゴーは『日本は極東に於けるプロシヤである』と叫んでゐる。が、自分は此文句を次の意味に於て肯定したい。乃ち、プロシヤは、マルクス及びエンゲルスを生み出してゐる。そして世界に於ける革命運動の搖籃地である。リビクネヒト及びロザルクセンバーグの如き尊敬すべき同志を出してゐる。それと同じやうに、極東に於けるプロレタリアートの大指導者を出すと、ともに火蓋を日本が切るであらう。

◆併し、日本の支配階級は露西亞の帝政時代のそれよりは甚だ賢い。そして彼等は多の智識を諸外國から得てゐる。乃ち獨逸より軍國主義を學び、英國よりその殖民的政策を習ひ、米國より資本主義の產業工業の術を受けてゐる。此の三つの典型的な强みを彼等は習得してゐる。

◆以上の外に、日本の支配階級は露西亞の革命の成功、ハンガリヤ勞農政府の倒壞、獨逸帝國主義の崩壞に依つてプロレタリアートの擡頭に防備すべき術と智識とを彼等は學んだであらう

◆是等の事柄から推論しても日本のプロレタリアートはその使命遂行に於いて非常なる所の困難が橫つてゐる。この注意を自分から日本のプロレタリアートに贈くる言葉とし諸氏が日本にもたらして貰いたい。

レーニンの逸話から

山川均

□

レーニンが何か方針なり政策なりを定める時分には、まるで數學家が計算をするやうな精密な打算をした。參謀官がテーブルの上に地圖をひろげて、彼處に敵の歩兵が何千ゐるこゝに敵の騎兵が何大隊ゐる、向ふには何吋砲か何門あり、それ故この方面に味方の兵隊をこう配置しなければならぬと云つて作戰を定めるやうに、レーニンが何か新方針なり新政策なりを立てる場合には、驚くほど綿密精細にその當時の形勢を分析し、こちらに都合のよい勢力とこちらに都合の惡るい要素とを、殆んど數學的の精密さで計算し、さてそれ故に、斯く斯くの方針を取らねばならぬといふ、理詰めの斷案を下すので初は反對してゐた人も、なるほどと納得する。

これがレーニンをして、何時でも、大勢の趣かざるを得ない理詰めの道、必然の道、唯一の道を見定めさせた。そして彼は何時でも、之より外には行く道のないといふ道に從つて方針なり政策なりを定めてゐた。そして之が亦たレーニンをして、自分の方針なり政策なりに非常な自信を持たしめてゐたのである。十一月革命後間もなく、ブレストの屈從的に調印するか、それとも獨逸と一戰するかといふ大評定の時にも、レーニンは衆議を排して屈從的を主張した。元氣に溢れた若手連中は激昂して、レーニンをふん縛れと怒號した。するとレーニンは落着き拂つて、諸君が僕を縛ることよりも、僕が諸君を縛る方が可能性が多いと答へたほど、彼は自分の主張に對しては何時でも自信をもつてゐた。

□

レーニンは何時でも矢張りこの調子で他人を說得した。

十一月革命後、レーニン等の考へでは一切の產業や工場を沒收してすぐ様國有にしたところで、とても有効に經營してゆかれぬので、主要工業や大工場を除くの外は、在來の經營者に任せておく積りであつた（最も後には工場主が故意に工場を閉鎖したりするので止むなく國有にしたが）しかし勞働者の間では一も二もなく工場を沒收して、すぐ國有にすることを要求した。其頃のこと、或る小工場の勞働者の代表者がやつて來て、自分等の工場をすぐ沒收して呉れと請求した。するとレーニンは代表者の云ひ分をゆつくり聞いた上『よろしい譯のないことだと云つて一枚の印刷した用箋紙を取り出した。そらこの欄に君等の工場の名前を書き入れる、この欄には地名を書き入れる、この欄には……そしてこゝのところへ僕が署名する、譯のないことだ……『が然し』と云つてレーニンは若い代表者の方を向いて『然し君等は、原料は何處で手に入れるのだ、それから石炭は……』代表者には勿論見當がつかなかつた。レーニンはもの柔らかに斯う云つた。『それちやも一度會議を開いて呉れ玉へ、そして原料と石炭の方法さへついたらいつでも僕が此の書類に署名する』。

□

レーニンのすることには、よい加減なことや、誤間化しや中途半端なことがなかつた。彼は小いさな事でも、徹底的にやりぬかねば承知出來なかつた。それには面白い逸話がある。或る時、アメリカの新聞記者のヰリヤムスがロシヤ語が上達せぬので弱つてゐたするとレーニンは、僕の外國語研究法を敎へやうと云ふから、聞いて見ると斯うだつた先づ名詞を殘らず暗記し玉へそれから動詞を殘らず暗記し玉へ、其次には形容詞と副詞を殘らず暗記し玉へ、それから文法を殘らず暗記し玉へ……かうして先づ外國語の背骨を打ち碎くのだ……。』

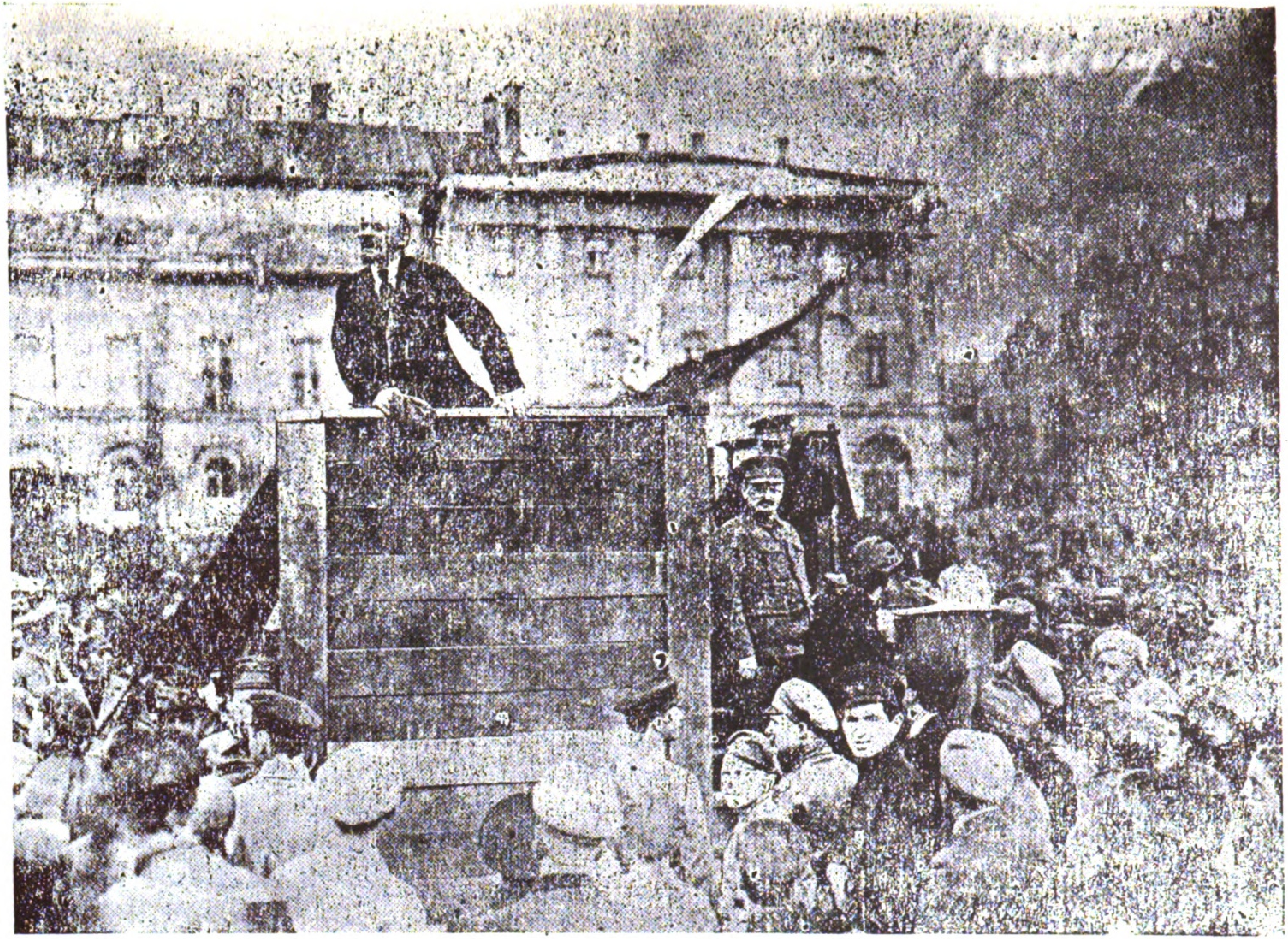
□

レーニンは屢々死を傳へられた。それほどレーニンは過度の仕事のために革命の初年から健康を失ふてゐた。勞農政府が出來て二三年の間は食糧が不足して居つたので、市民はすべて、政府から一定の割當てを受けてゐた。レーニンも矢張りこの割當て通りのパンと砂糖のない紅茶で滿足して居つた。そして醫者がいくら營養物を取ることを命じても、彼は決して割當て以上のパンは食はなかつた。そこで妻君と妹が大變心配した揚句、レーニンの知らぬ間に、こつそりと机の抽出に餘分のパンを入れておくことにしたが、勿論きまつた時間に食事をするといふやうな、呑氣な時期ではなかつたのでレーニンは仕事の合間々々にそれとは氣づかづに抽出からパンを出してはかぢつてゐた。

この不斷不休の働らきが、四年も五年も續けられたことを思ふと、人間の精力と云ふものは一體どの位あるものかと驚かされる。

この驚くべき精力の化身であつたレーニンも死んだ。彼の命はこの數年の間に、新しい露國の建設のために、文字通りに磨りへらされ、使ひ盡されて、とう〳〵無くなつたものだと云つてよい。（拙著『レーニンとトロツキー』より）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



◉一九一八年のブレストリトフスク條約締結前の十字街頭に於ける收見言見の雄姿
（演壇の右軍服姿で立てるがトロツキーその背後がジノビエフ）

反動期に於ける列國プロレタリアートと我等の覺悟

田口運藏

その環境に處する途を、常々の主張に矛盾をせぬやうに最も合理的に見い出す事が、マルキシストを以て任ずる吾等の緊要なる問題の一つである。刻下の、而も當面のそれは、この反動期を如何にして突破するかである。これを論述するには、私は或は日本の事情に餘りに無暗かも知れない。然し私が過去數年間歐米の社會主義運動の渦中をのぞいて來たと云ふ立場からして一般的に批判する事をゆるしてもらはう。

如何なる運動を論述するにしても、その政治的經濟的或は社會的の環境を假定しないでは當を得たものとは云はれない。だから少なくとも世界の大勢がどう動いてゐるかを簡單に檢討して日本の現狀に及ぶべきではあるが、此處では、いかに列強のプロレタリアートが反動の奈落に呻吟しているかを言葉少なく列述し、そして日本の吾等社會主義者はこの反動機運を突破すべくいかなる覺悟を固むべきかを論じて見ます。

（一）

一九一九年十一月ロシアのプロレタリアートが社會革命の決定的勝利を得るや、その影響は全世界のあらゆる方面に及ぼした。實に世界革命の完成は決して夢想でないとブルジュアジーをしてすらも考へせしめたのであつた。然しながら、さしもに燃つた革命運動の火焔も、一九一九年のドイツ革命の蹉跌、ハンガリア勞農共和國の崩壞、一九二〇年のイタリア勞働者の工場占領の失敗を動機として俄然その反動が全歐洲に擡頭し始めたのである。

（イ）ロシア　インターナショナリズムを標語として勝利を得たロシアのプロレタリアートは、全世界のプロレタリアートの解放のために幾多の自國民の損害と犧牲を餘儀なくしたかは何人も熟知のことである。右手にハンマーを握り、左手に劍をかざして列强のプロレタリアートの蹶起を待つこと實に數年であつた。對內的には全勝を得たロシアのプロレタリアートも、列强の經濟的封鎖と外交的ボイコットのために、遂に「新經濟政策」の妥協方針によらなければならないヘメに到つたのである。勿論「新經濟政策」は決して、ブルジョアー批評家の云ふが如き、共產主義の拋棄でもなく、資本主義への降伏でもない。反動的世界の舞臺に、自からの環境に處するためのプロレタリアートの策戰に外ならない。そしてこれの採用を餘儀なくせしめたものは、ロシアの民衆に非らずしてむしろ、列强のプロレタリアートの脆弱なる罪であると斷言が出來る。もと〱新經濟政策は、共產主義治下に於ける資本制度の採用であつて、極めて過度的のもので永久的のものではない。であるから、プロレタリアートの祖國であるロシアソビエト共和國の政策方針は總て、全世界のプロレタリアートの勢力の如何を考慮に入れて決定さる。ブルジュアー世界に於てロシア、ソビエット共和國がいかに苦境にあるかは丁度帝國主義の日本に於ける吾等社會主義者がいかに壓迫と苦難のもとに生存しつゝあるかと同一の程度である。

（ロ）ドイツ　ローザ、ルクセンベーグ。カロ、、リピグネヒトを失ふたドイツのプロレタリアートは未だ新共和國の政權を、その掌中に握りかねてゐる。否な反動的ブルジョア頭目スチルネ一派のため非常なる抑壓に苦んでゐる。

マルクス、エンゲルスを生むだドイツの勞働階級が一九一九年以來數度の好機會を逸して、社會革命の遂行に蹉跌した。その原因はドイツの社會運動が日和見主領及び社會主義裏切者に毒せられたためである。例のビスマークの社會主義鎭壓令の發布以來は、ドイツ社會民主黨の指導權は革命的マルキシズムの本原理を離れて、ベルスタインの修正派に移り、カウッキー一派の日和見的論理に毒せられ遂に一九一四年の歐洲大戰勃發と同時にドイツ社會民主黨は、その傳統的革命行爲を抛棄したのであつた「この實例こそ吾等日本の同志諸彥の充分に參考としなければならない點である。近頃には日本も過激法案の發布を見るであらう。そして多くの相所攻鋒の上の社會主義者はリベラリズムにその避難所を見い出すこともあらう。それは政策の上より見て如何なる手段も時と場合によるが主義原理と日和見化することは、確にマルキシズムの裏切者である。」然しながら、この絶大なる失敗の經驗を得たドイツの革命的に覺めたるプロレタリアートの大衆が一方フランス帝國主義のルール占領に抗し、他方國

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

内産業経済の極度の混乱を救済し得る唯一の途はプロレタリアートの獨裁政治の樹立であることを理解して來た。最近のドイツ政府は徹底的に共産黨を抑壓してゐる。支配階級は共産黨の機關紙を沒收し、黨の首領を投獄するなど、全くの白色恐怖政策を斷行してゐるにも拘らず大衆は續々共産黨の旗幟の下に走りつゝあるを見ても、彼等ドイツのプロレタリア！が政權を略取して、社會主義の名の下にブルヂョアの利益を擁護したるエバート、シャイデマン、ノスケ等の徒を斷頭臺に祭り上ぐる日も或は甚だ近き將來であらう。

（ハ）フランス　歐洲大戰に勝利を待たフランスは、かつてカイザーが夢想して能はざりし軍國的帝國主義の政權を中央ヨーロッパに確立せんとしてゐる。そはフランス政府が、ポーランド、ラトヴェア、フェンランド等の小弱國に強要する所の政策、或はルール占領の事實に依つて充分に說明されてゐる。

偉大なるパリーコンミユンを決行せる一八七一年のコミユナードの子孫であるフランスのプロレタリアートは今尚ほポアンカレー、クレマンソー等の反動保守の政治家の軍國主義の軌下に呻吟してゐる

由來フランスのプロレタリアートも有産智識階級の社會主義者に惑され、幾多の日和見首領に欺かれてあつた。そして革命的反逆氣分は多量に磨せられたのである。

一例をあぐれば、吾等が敎師マルクスの孫に當るジアンランゲーは、フランスの多數黨の首領として第二インターナショナルの指導者の一人である。彼の如きは、マルクス主義を自家の專賣品の如く心得て『マルクスは吾が祖父である。かかるが故にマルキシズムは自分が本統の正派である』とまで主張してゐる。そして自からカウツキー流の日和見主義に墮落してゐながらもロシアのボルシヰウエキーと論戰してゐる點より見るも如何にフランスの社會黨首領等のブルヂョア化せるを知る事が出來る。

さりながら時は迫り來る。カシアン、モテナ等の共産黨の闘士がフランスのプロレタリアートの大軍に擁せられてパリー、コンミユーンの壯擧を再びパリーに決行する日もドイツのプロレタリアートの勝利如何によりては或は遠い將來ではあるまい。

（ニ）イギリス　近代資本主義の祖國であるイギリスは自由主義進歩派の失態に次いで保守派の天下になつたがその反動の反動として、今や政權は勞働黨の掌中に移つた。勿論、ヘンダーソン、マクドナルド等の自由主義的の勞働首領が閣臺に列するからとて、勞働者の天下と云ふ事は出來ない。が、チャーチズムの革命運動の試練を經たイギリスの勞働階級は勞働黨の政權掌握を前提として、或はプロレタリアートの勝利への途の第一歩をふみ出すのではあるまいか。

由來、イギリス資本主義の殖民地掠奪政策の成功と相待つて、勞働階級の上層は全くブルジョア化して所謂『勞働貴族』の一階級を拵い上げたのである。その罪は社會主義の名によつて政界に立つ、或は職業組合に頭する日和見主義者にあつた事は確である。

（この點に付いては、特に我等日本の同志は充分なる注意を拂はなければならない。とくに近來吾等の運動が一般的政治運動に割込む必要に迫つた場合は然りである。）

（ホ）イタリア　ツラテ、ダラゴナ等の職業的社會主義の裏切者に欺かれ、マラテスタ一派の狂的アナキストに混惑されたる、イタリアの勞働運動は、さしもに全國的に漲つた革命機運に乘じて決行せる一九二〇年の工場占領の失敗を分水點として直天直下反動恐怖の奈落に抛げ込れたのである。そして、イタリアの革命的勞働階級が一度狂暴なるムソルユー一派の猛威に壓せらるゝや、それに抗戰する勇氣も失ふたかの外觀を呈してゐる。僅かにイタリア青年共産黨のみが惡戰苦闘よく反動保守の恐怖政策に抗しつゝあるのみである。一昨年の暮にクデータで政權を握つたムソルユーはファシチズム獨裁の名に於いて總ての左傾團體の撲滅を期してあらゆる殘忍狂暴の抑壓政策に出でてゐる。この反動的國粹黨たるファシチズムは排他的愛國主義の立場からゴルフ島問題を口實としてギリシアと戰を宣しながらも、他方、その仇敵たるべきロシア、ゾイエット共和國と正式外交を約せんとしてゐる。こは何を物語つてゐるか。經濟的には勿論のこと政治的に於いても全く行詰つたことを暗示してゐるのである反動的白色恐怖政治の反動として盛り返す好機を見定めて當然に避け難き階級的激戰の準備へとイタリアのプロレタリアートはいそいでゐる。

（へ）ハンガリア、ブルガリア、スペイン。

勞農ロシア革命に次で一時勞農共和國の樹立を敢行せるハンガリアのプロレタリアートも、ベラクン内閣の崩落を序幕として白色恐怖の執政官ホルチー將軍の反動治下に犧牲に供せられてゐる。

イタリア、ファシチズムの優勢が全歐洲の保守派及び盲目的愛國青年に甚大なる感激と手本とを與へたのであるが、その第一の表れはブルガリアに於いてであつた。一九二三年の六月末に農民黨の首領スタンブリスキー首相の暗殺と同時に突破せるルーセフ大將

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

タンコフ教授等のクデータとして反動革命が惹起したのである。

次にその影響として表れたのは一九二三の秋勃發せるスペインの反動的軍閥の革命である。これはカルモニアの分離運動と共產黨の革命的運動との優勢に恐れたる急進國粋黨と軍閥との騒擾である。そしてクデータに成印せるデ、リヴェーラ將がその首相として、反動軍閥の内閣を組織してゐる。永身の經濟的混亂と新興のブルジョアの壓制と、封建的專政に虐げられて來たスペインの勞働階級は、來るべき時機に於いて、より以上の南歐人の特質たる革命的反逆氣分を發揮する事であらう

(ト)アメリカ　アメリカは兎に角今や資本主義萬能の黄金時代を表示してゐる。保守派の大資本家黨たる共和黨が廟堂に座してゐる。私の推論にして正しければ、アメリカは資本主義の最後の防塞であらう。そしてその資本主義萬能を發揮し得る諸點を次の五ケ條に別けて通俗的に檢討し得るのであらう。(一)新興國にして、階級的な固定的な習慣が割合に少なく、國民が一般に元氣盛なる事(二)地域が廣大、天然資源また甚大にして資本主義のより以上の發達の餘地が充分にあること(三)政體がブルジュアー、デモクラシーであつて、個人の自由競爭が絕對に放任されてゐること(四)下級勞働階級は大部分、歐洲移民或は有色人種の勞働者によりて構成せられ、彼等は市民權の獲得が甚だ艱難であること(五)上層勞働者即ち『勞働貴族』は割合に良くブルジュア的に職工(同業的)組合を組織し專問的勞働首領に統治せられその首領等は當局と結托して革命的分子の抑壓に努め、專必プロレタリアートの政治運動を排斥してゐること。加之に、アメリカに於ける幾多の優秀なる革命運動の闘士はロシア、ハンガリア、ドイツなどの各々本國の革命援助のため米國を退いて以來は米國の革命運動は全く火の失せた感がある。一昨年樹立されたるウオカース、パーテー(勞働者黨)も何等の發展なく、I、W、W、も歐洲のシンヂカリストと同樣に反動派に左右せられて居る狀態である。以上の理由からして世界に於けるブルジュアーの最後の保塞はアメリカであるかも知れない。

(チ)殖民地　アイルランド、インド、エジプト、朝鮮等の殖民地は歐洲大戰後、民族自決に覺め、掠奪的殖民地制度に反抗して、それ〳〵民族獨立の峻烈なる運動を始めてゐる。民族獨立運動は本來それを抑壓掠奪する帝國主義に抗して立つブルジュア運動ではあるが、最近の世界的潮流に接し革命的プロレタリアの解放運動に感應して彼等の經驗を通して、インターナショナリズムの革命運動に到達するのは必然の道程である。

以上述べた如く、各國の形勢を大觀して次の結論に達し得る。

今や世界のプロレタリアートは反動政治の軌下に呻吟してゐる。然しこれは永續的の現象ではない。そして歷史的發達の課程を意識せる、眞に革命的に醒めたる・プロレタリアートの前衛は、來る可き絕好の機會に處するために共同戰線の準備に急いでゐる。

(二)

日本はどうであるか?軍閥に次ぐに特權貴族が專制超然内閣を組織し、實權は尚ほ封建的貴族の掌中に握られてゐる。ブルジュアの政治ゴロが政友會、憲政會を組織し、他の小ブルジュアは商工黨を樹立して、新興階級なるプロレタリートの擡頭を抑壓せんとしてゐる。にも拘らず勞働者小作人等の總ては、未だ參政權の何等の形式すらも與へられず、そして彼等の利益を擁護すべき組合までが公認されてゐない。積極的にも消極的にも「生存權」なる文字は日本の無產者階級には空語である

斯の如き封建的の專制から全く脫しかねてゐる日本島へも、尚ほより以上の反動的保守の世界的潮流がながれ込んで來た。軍事研究會、國粹會大化會などは文字通りの反動的復古を表示する盲目的な模做愛國者及び無智の浮浪人の職業的團體である。最近、社會事項として頻發する個々の事件に付いて日本の官憲はこと〳〵にこれらの諸團體を後援友持して、反動的潮流の助長を許りつゝある點から見ても、いかばかり日本の社會が反動的に導かれてゐるかを知る事が出來る。

早稻田大學の騷擾、共產黨事件、大杉事件、龜井戶事件事件及び流言蜚語に依る、人虐殺など總ての出來事が、一齣思想の暗闘を物語つてゐる。そして、それ等の事件に對して、日本の當局及び支配階級は如何に處置し、如何なる態度を以てこれを解決せんとしてゐるか。この點に關しては吾等は多言を要せないであらう。然しながら、吾等社會主義者は例の關東大震災に際して被つた大衆からの誤解を雪ぐべく努めるのは決して無意義ではない。流言蜚語は或筋からの宣傳とも思はるゝ點もあるが、吾等が一時なりとも民衆の仇敵と見做され、社會主義者は、殺人掠奪放火强盜を仕事とする浮浪人であるかの如く思はれたことは、甚だ遺感とする處である。そこに吾等が熟慮しなければならない點がある。いかに流言蜚語が効を奏したとは云い、そこには確に吾等社會主義者の運動には不備なそして缺陷があつたかもしれない。吾等はいかに小數で微弱であつても常

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に堂々と被壓迫階級、被掠取階級の政治的、經濟的の代表者であり、國民一般大衆の利益のために、その味方として戰はねばならない。少なくとも、斯く任じて行動を取り、そして、それに對する吾等の犧牲は甘受すべきである。

支配階級及びその從屬の徒は法律、警察、學校、宗教、新聞、軍隊等總ての武器を通して吾等を抑壓し、そして吾等の思想を武力で撲滅せんとして努めてゐる。彼等は虐殺を爆彈と心得て、事ある毎に虚報を亂發して一般國民を事件の眞相より遠け、或は吾等同志の反感離間の策を採つてゐる。

斯の如き壓迫の環境にあつて吾等日本の社會主義はいかに處すべきか。これが吾等の最も眞面目に研究し、そして最も大膽に決行しなければならない點である。社會主義の發達とその近路には幾多の難事が横たはつてゐる。社會主義者のまわりには常に數へ切れない多くの人爲的危害が迫つてゐる。だがこれに恐怖して只憤激し或は萎縮するは聰明なる同志ではない。やがて我等は階級意識に醒めたる勞働者及び小作人等の大衆に後援されるであらう。やがては幾多の理解せる青年子弟に守られるであらう。されば、いかに反動的氣運に壓せられても、失望し、落膽する些少の理由を發見し得ないのである。

現時の我等はブルジュア獨裁の軌下に置かれて、我等の使命は或は大びらに主張し、或は具體的に強調し得ぬ點もあらう。されども共準備を急がなければならない。日本最近の出來事は丁度ロシアの一九〇三年から一九〇五年頃までの革命豫備期に相當する低氣壓の來襲を感ずる。

我等の豫備とは何か？採るべき途を見定め、その進路を阻止する總ての勢力を打破すべき用意に外ならない。

反動期を突破する術、即ち勝利への途への第一歩は、プロレタリアートの前衛の組織とその戰術の如何に依つて決定さるゝ。組織は困難である特に日本の現狀に於いてこの事業を行ふには甚だ困難に、相違ない。我等はこの困難に打ち克つ丈けの努力と訓練とを必要とする。

合法的、違法的、公然秘密議會利用、或は直接行動總ての緩急大小種々、雜多なる爭鬪方法を時と場合とに應じて採るが我等の戰術の全部である。一九〇三年から一九〇五年のロシヤ第一革命までにボルシヴュキが經驗したる歴史的事實は正にこれを表示してゐる。

政治的參與權を有せない小作人の大衆と都會プロレタリアの大軍をいかにして結合すべきか。そして彼等の眞の利害のために第一線に立つて奮鬪し得るにはいかにすべきかこの問題を解決して後、我等は政治的主權を〇收することが初めて出來るのである。これが我等の最終の使命であるこの意味に於いて日常當面の問題として起りつゝある勞資の爭鬪又び小作對地主の爭議に於いて我等全力を盡して小作勞働者の利益のために鬪なければならない。いかなる反對的の勞働合組でも消費組合でも或は小作組合でも、共處がプロレタリアートの集合である、小作人の團體であるならば我等は彼等の利益のために共處に於いて壓迫者に抗して鬪かはねばならない。政治運動に對しても然りである。階級爭鬪の最も正則なる表れは政治運動に於いてゞある。その立場から普選斷行に主力を注ぐリベラリストを援けて同時に我等プロレタリアートの政治運動の開始は當然である。この反動期の日本に於いて議會利用の策戰を『妥協』なりとして峻拒する類の社會主義者は、自個の無能と怯懦とを自から表白してゐるに外ならない。

レニンは青年共産黨の左派を戒めて『……あらゆる眞正の革命家にとつて最大の危險は、革命主義で羽目を外してその方法の適法で成功に富む適用を忘れたことである。生粹の革命家は實に屡々次の點で蹉跌する。即ち彼は『革命』を大上段に振りかざして革命を恰も偶像に祭り上げて正氣を失ふて遂にどんな瞬間にどんな狀態の下にどんな實行方面に改良主義的に振舞はねばならぬかを冷靜に反省し、眞面目に推定する能力を失ふてしまう處にある。……』と述べて居る。この一句は日本の經驗にとぼしい我等社會主義者に取つて最も有意義の戒である。

次に國家社會主義の名にかくれ或は民族的主張の裏にかくれて、形を現す處の排他的傾向、愛國的氣分の最も注意すべき點であると思ふ。この種の思想的誤謬が歐洲大戰前の世界の總ての社會黨内に優勢になつてゐたので一九一四年の大戰勃發當時、あらゆる社會黨の首領等は『祖國のためにと云ふ標語をかゝげて、自國のブルジュアジーを意識的に或は無意識的に援け、社會主義の使命を裏切りて遂にプロレタリアートを欺いたのである。これが第二インターナショナルの破産の主因であり動機であつた。社會主義者は總ての問題に對して常にインターナショナリズムの基礎に於てプロレタリアートの利益のために解決方法をえらばなければならないこの平易にして明日より事柄を嚴守するは吾等マルキシストの訓練の第一歩である。

以上の覺悟を以てこの反動期に處する策をたてて、來るべき時に備へなければならない。（終り）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

普選實施と政黨運動

鎌田安之助

一

軍隊と憲兵とに依つて實際上の戒嚴令を敷き、井上、緊急勅令による治安維持令を敷いてゐる政府は、一方で普通選擧を斷行すると云つてゐる山本内閣が普選を實施せんとするのは、閣内に後藤あるが爲でも犬養あるが爲でもなく實にブルヂョア政黨たる政友會を向ふに廻して、太刀打せんとする官僚に取つては、之れが都市及び農村の小ブルヂョアを後楯に頼む唯一の[illegible]であり、無產階級の不平勃發に對する唯一の安全瓣だからである。

そこで、普選の實施と同時に當然起るものは、政治的國内に於ける新勢力の勃興、云ひ換れば無產階級の政治運動である。從來、吾が國の勞働者はその經濟的運動の爲には勞働組合と云ふ組織を有して居り、且つ勞働運動は今まで殆んど全く經濟運動に限られてゐた。勞働組合運動の主潮が今日まで、政治運動を排して來たのには、勿論サンヂカリズムの思想的影響も與かつて力あるには相違ないが、然しその主因は勞働者の政治的觀念が未だ發達せず、勞働運動そのものが經濟的範圍の改良運動に限られてゐたからである。

ロシアの勞農革命以來、吾が國でも從來の社會運動の方針に一大變化が生じて、政治運動への方向轉換論が唱道さるゝに至つた。けれ共、一般には未だサンヂカリズム的思想の影響が除かれず、之れには反對說も少くなく、原則上で承認賛成してゐるその間にも、實際の政策問題としては猶且つ多少の異論を有すると云ふ事情であつた。

二

だが、實際には、勞働運動最近の傾向が、著しく政治的色彩を帶びて來てゐることは爭ひ難い所であつた。曰く勞農ロシアの承認、曰く失業防止の要求、曰く過激法案の反對、曰く小作法案及び勞働組合法案の反對、最近現はれた顯著なる事件にして、孰れが政治運動でないものがあらうか。勞働運動の急進分子なりまた勞働運動の主潮なりは、實際、今日では最早や政治運動を否定してはゐないのである。

又、若し之れを否定するとせば、隨分オカシな矛盾が生じやうと思ふ。勞働運動の傾向趨勢は今や既に往年の社會改良主義を脫却して、資本主義制度の倒壞を目指せる社會革命に進んだとは、勞働運動者の自ら聲明してゐる所である。然しながら、その眞に果して然るや否やは、その聲明に由らず、その行爲に由て判斷しなければならぬ。

そこで、政治運動を否認するとすれば、勞働運動の分野領域は專ら經濟運動に限られる譯だらうが、之れは明白にチューオー一派のサンヂカリズムであつて、社會政策論者の本壘と賴み、ブルヂョア哲學の根據地をなせる、漸進的社會觀に外ならない。此の議論は、一切の勞働大衆がそれぞれ勞働組合を組織し、勞働者が知識的にも技術的にも資本主義社會の產業制度を繼承し得る迄に、產業管理の能力を發達させ、勞働組合が資本主義社會に取つて代り得る迄の尨大無限な發達を遂げた後に、資本主義制度は初めて自然に崩壞すると云ふ事を豫想せるものである。早く云へば卵の殼が割れた時には、もう既に鷄の雛が完全に發育してゐると云ふやうな議論である。

から云ふ思想が、勞働運動の主潮をなしてゐる間は、ブルヂョア階級は安心してゐられる。その宣言や演說がいかに革命的だらうと、その同盟罷工がいかに暴力的だらうと之れは明白に社會改良主義に過ぎない。少くとも其の客觀的態度は、畢竟その境地を出でないからである。

三

一切の勞働大衆が勞働組合に入り、且つ勞働組合そのものが尨大の發達を遂げるには產業が數十年間に亘つて順調な發達を續くるを要する。然し此の如きは、國際的な經濟

事情が極めて正當な場合と雖も、到底不可能な話であるのみならず、況んや歐洲大戰の結果、資本主義列強の經濟組織が殆んど破産に瀕せる今日に在ては、全く痴人の夢に類してゐる。

勞働運動の歴史の如何に永くして、其の全勞働者數に對する組合員數の如何に少なきかは暫らく措くも、歐洲戰後の世界的不景氣を資本家的攻勢の結果が、歐米の組織的勞働者に如何なる打撃を與へ、勞働組合の數的勢力を如何に崩壞させたか（米國すらも組合員の減退百萬人以上に及んだ）を想へば、前記の如き豫想の到底實現すべからざるは極めて明白である。それに、若し社會制度の根本的改革を生物進化の上に見らるゝ如き漸進的變化に俟つべしとすれば、今後なほ幾千年を經なければならぬかも圖り難い。故に、から云ふ假定を包含せる經濟運動は、所詮は社會改良に過ぎないのであつて、決して資本主義制度の上に立てる社會關係を革命するものではない。

勞働階級にして資本主義制度を倒壞せんとせば、資本主義制度の牙城たる政權を奪取し、自らその階級的國家機關を組織し、此の機關に依て經濟組織を改造しなければならぬ。ロシアの勞働階級はボルセツキキの指導の下に、ソツキエツトと云ふ彼等自身の國家機關を組織して、その獨裁政治を敷いたが爲にロシアの無産階級革命は成就した。然るに、イタリーの勞働階級は資本家を工場から放逐して一たびは生産管理の實權を掌握したるにも拘はらず、畢竟するに工場占領と云ふ經濟運動の力に出でず、國家の政權に向つては一指をだも染めなかつた結果、空しく千載一遇の好轉を逸して了つた。

マルクスは「各時代の政治形態は、その時代の經濟關係の上に築かれた上組だ」と云つた。經濟上の優越階級は啻にその時代の政治形態、即ち國家機關の形成を決定するのみでなく、亦その性質と職分とをも決定する。云ひ換れば資本家階級の經濟的勢力の綜合結晶せるものが、即ち實にその政治的權力なのである。故に、資本家に對する勞働者の經濟的鬪爭は、必然に政治的鬪爭に發展せざるを得ないので、「一切の階級鬪爭は政治的鬪爭である」と云へるマルクスの言、眞に吾を欺むかずだ。

四

だが、今日から云ふ意味での政治運動をも否認せんとする、急進的勞働者は殆んど無からうと信ずる。然るに事一たび普選要求とか、議會運動とか云ふ問題になると、今も猶ほ多少の異論反對に會するは何ぞや。

抑々、政治運動は肯定する者、社會運動に否定すると云ふのは、第一に原則論から云つても矛盾した話だ。社會が政治機關の本體である以上、議會を無視した政治運動と云ふものゝ有りやう筈がない。唯だ吾人の謂ゆる政治運動と社會政策との根本的相違は、このブルヂョア政治の本體たる議會をブチ毀すのと、社會に依て社會改良的政策を敷くのとに在る。今は勞働組合運動の目標が資本主義制度の倒壞と、賃銀制度の徹廢とに在ることを承認せる急進主義者にして、勞働組合が一般勞働階級の位地を向上し、その生活狀態を改善して、階級的勢力の鞏固堅實を圖らんが爲に賃銀の增加、勞働時間の短縮等の如き、間接的手段に出づるのを非難攻撃する者があるだらうか。

吾々は經濟上に於て、一歩でも廣く吾人の地歩を獲得しその既得の陣地は飽まで固守すると共に、更に此の陣地を擴張することに努め、そして或る最も有利なる戰略的機會を捉へて、敵の本壘牙城を一擧に屠るべきである。之れが資本家階級に對する經濟的鬪爭の唯一の戰術である。それと同じやうに、政治的鬪爭に際しても、最後の總攻撃に出づべき機會を捉へる事は絕へず攻勢的に敵の陣地を侵略し味方の堡壘を擴張固守しなければならぬ。

一治安警察法の有無は、根本的に不正野蠻なる今日の社會制度を對象として視る時は齒牙にかゝるに足らぬ問題だ然しこれが徹廢は、吾人をして更に大なる社會的不正と戰ふ上に、多少でも自由なる境地を開く場合には、吾人は進んで治安警察法徹廢なる政治運動を起さねばならぬ。一新聞紙法の徹廢が、吾人に無保證金の言論自由を與へる場合には、吾人は奮つて此機會を捉へなければならぬ。普選は吾々が拱手してゐても、やがては天降り的に敷かるゝであらう。だが、如何なる普選が敷かるゝかと云ふことは、一々民衆の自發的な、攻勢的な組織的な、積極的な運動に依て定めらるゝのだ。

否、否、此の日常不斷の政治的及び經濟的鬪爭に依てこそ、民衆の革命的精神は皷舞せられ、その革命的意識は助長せられ、その革命的訓練は養成せられるのだ。實際に當つて最も勇敢なる軍隊は、必ずや平時に於て最も演習に努めたに違いない。

四

社會運動は社會政策ではない。政治運動は反直接行動ではない。

社會政策は合法論の上に立つものだが、無産階級政治運動は不合法論に立脚するものである。議會政策派は議會に於ける立法手段を唯一の目的とし、合法的運動を以てその究極の限界と心得るものだが

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

吾人が議會を利用するの意は之に反し、不合法なる手段運動に、合法的性質を賦與せんとするに外ならない。云ひ換れば、吾人は社會運動に依て不合法的手段の合法化を無限に擴大せんとするものである。

曩に社會主義者の間に、所謂「無産階級運動の方向轉換」論が唱道せらるゝや、一部の勞働組合主義者の間には、之れを以て社會主義者の直接行動論抛棄と做せるものがあつた。又政府の普選實施が聲明せらるゝや、同じく一部の勞働組合主義者の間に「直接行動の行詰り」で以てその勞働黨組織說の一理由と做せる者があつた。共に短見の甚だしいものと云はざるを得ない。

吾人は毫も直接行動論を抛棄せず、また直接行動が行詰つたとは信ぜない。唯だ直接行動を從來の如く經濟運動の一局面にのみ限定せず、之れを政治方面にも擴大せんとするに過ぎないのだ。

政治運動の開始は、毫も從來の經濟運動の中止、若くば緩和を意味するものではない吾人は投票箋を用ふると同時に、總同盟罷工をも行ふべきである。而して經濟的鬪爭の一武器たる總同盟罷工の不合法性をば、政治的鬪爭に依て合法化することに努むべきである。無産階級の戰場は此の如くして初めて擴大せられ、その護たる經濟上の陣地は此の如くして初めて固守するを得、その階級鬪爭に必要なる各種の武器は、また此の如くして初めて公然と、從つて一層有効に使用せらるゝを得るものである。

要するに、無産階級の政治運動、即ち國家の政治機關を對象としての運動は、大衆の直接行動の一新局面として、初めて存在の意義と價値とを有するものである。

五

此の如き運動に、訓練と、規律と、統制と、組織と、綱領と、機關との必要なるは革めて云ふ迄もない。茲に於てか無産階級政黨の組織問題は必然に起り來らざるを得ず。

此點に關しては、目下勞働者のみの勞働黨、及び小農のみの農民黨を作るべきか、又は勞働者、小作人、及び水平社等を打つて一丸とせる勞働黨を作るべきか、而して亦、此の政黨には謂ゆる知識階級を加ふべきか否か、と云ふやうな議論が行はれてゐる。だが何故にそう云ふ區別を立てたり、色分をしたりするのか偏狹なる排他的觀念の外、未だ何處にそう云ふ必要があるのか。

政黨は勞働組合ではない。勞働組合は職業上の利害關係を一にせる者の團體であるが政黨は綱領上の意見の一致を基礎とせる團體である。從つて、前者が同一職業若くは同一產業に從へる勞働者以外、他の同じ階級的分子を包含せざる理由の存すると共に、此の策に職業的利害の一致に依て意見の一致に因るに非ざる構成組織そのものが、實に勞働組合の○○運動上に於ける最大弱點なのである。而してまた茲にこそ、社會○○の共通理想を基礎として、無產階級の左翼分子によれる政黨を組織し以て勞働大衆の進路を指導決定すべき必要が生ずるのだ。

故に、今後起るべき無產階級の政黨――勞働黨、又は勞農黨、若くは無產階級黨、名稱は何でも構はぬが――は、階級意識に富み、社會○○の理想信念に燃ゆる、同一階級の分子が出來るだけ廣く包含せねばならぬ。殊に農村の小農及び田園勞働者の如き謂ゆる準無產階級は、その經濟上の關係、社會上の位地、及び階級的意識の程度の未發達等から、もし工場勞働者の政黨がこれを包含せざれば、小ブルヂョア政黨の爲に利用せられ、全くその自家藥籠中のものと化し去つて、社會○○の一大障礙とならんこと明白である。

六

謂ゆる知識階級をも加ふべきか否かと云ふ問題に至つては政治運動はいゝが、議會運動は惡いと云ふと同樣、寧ろ滑稽の沙汰だ。抑々知識階級など云ふ社會的の一階級が果して存在して居るのであらうか。若し知識ある分子と云ふ意味ならば、それは今日の勞働組合内にすら厳然たる指導的位地を占めてゐる。若し小ブルヂョア的觀念に囚はれてゐる分子を意味するとせば不幸にして勞働階級の大部分は、猶未だその境地を脱する能はない、吾が無產階級の政黨組織に向ふ所のものは、職業的位地に於けるプロレタリアに非ずして、實に社會革命の理想に對するプロレタリア精神に富める者である。

之れに對する反對論のお定り文句は、ブルヂョア急進分子の侵入に基づく墮落の危險といふことである。吾人はその危險が絶對に無いとは、決して主張するものでない。否その危險はある程度まで認めざるを得ないのだが、然しそれは小ブルヂョア的觀念に囚はれてゐる勞働者それ自身の醸す危險と、畢竟は同じ結果ではないか。唯だ、これが豫防し糺正するを得る所以の途は、一に政黨の目標なり指針たる綱領そのものゝ性質如何にあるのだ。

或は曰はんだ、綱領は以てよくブルヂョア急進分子の侵入を防ぐに足らん。然れ共それと同時に階級意識の未だ發達せざる勞働大衆を包含する能はざるを奈何と。だが、如何に急進的でもブルヂョアはプロレタリアでなく、如何に保守的でもプロレタリアはブルヂョアでない。其の間には、到底越ふる能はざる階級

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

的區別、社會的溝渠が存してゐるのである。故に、若しその綱領政策にして果して眞に無產階級の利害を代表するものなどは、勞働大衆をして無產階級政黨の傘下に糾合せしむるは、決し難事ではないと信ずる。

且つ亦、無產階級政黨の實際的な戰術方略としては、吾人は時に、而してある時期までは常に、ブルヂョア急進派を援助支持して、共通の敵たる封建的攻勢力の官僚軍閥と戰はなければならぬ。ロシアのボルセッキキはコルニロフの侵略に際しては、その敵たるメンセッキキのケレンスキー政府を援助するに躊躇しなかつた。然るに、ブルガリアの共產黨はスタンブリスキーの農民黨政府と協同戰線を作らなかつた結果、遂に反動派の白色暴力に蹂躙されてゐる。

吾人が政治運動に依て獲得せんとする、少くとも當面即刻の目的は謂ゆる民主的制度である。吾々がブルヂョア民主制の樹立を目的とする者でないことは勿論だが、然し謂ゆる第二革命、即ち無產階級革命が、謂ゆる第一革命、即ちブルヂョア革命とある程度まで同じ經路を取ることも歷史的必然として疑ひなき事實である。故に無產階級がその究極の目的を遂成する道程上の戰術方略に於て、急進的ブルヂョアの究極目的と軌を一つにする場合あるは固より當然の話である。唯だ此の急進的ブルヂョアをしてその究極目的を達成せしめ、獨逸の如く、所謂ブルヂョア民主制を樹立せしむるか、或は此の政治的危機を利用して、ロシアの如く之れを無產階級革命に導びくかゞ、吾人に殘されたる問題なのである。」

七

無產階級は今や、政治運動の檜舞臺に立たんとしてゐるが、恨むらるは舞臺稽古を積んでゐない。云ひ換れば、政治運動に關する明確なる槪念を有してゐないのだ。

日本に社會主義運動起つて既に二十年、歷代政府の傳統的な壓迫政策は、殆んど政治運動としての形態を存せしめなかつた結果、社會主義者自身、無產階級の政治運動に就て非常な誤謬に陷ゐつてゐた。山川均君にして猶且つ、[illegible]

に議會運動を開始せよと云ひ切らず、況んや荒畑寒村君が嘗て『前衛』誌上に發表せる政治運動に關する一論文に至つては、明白にサンヂカリスト的偏見の殘存を暴露したものであつた。又、社會主義者中で政治運動を主張せる某氏の態度は、全く合法論を以て限界とせる純然たる社會政策主義であつた。そうかと思ふと普選大害論なんて云ふ議論を眞面目に發表した社會主義者もあり、産業的勞働組合の意味をすら解せず、職業組合の地方別聯合主義を固執せる社會主義者もある。

然しながら吾人は今や、すべて此の止むを得ない理由もあつたが、然し全く誤まれる見解から脱却して、無產階級の針路上に急角度的大方向轉換をやらなければならぬ時期と、必要とは際會してゐるのだ。

コムミユニストと政治運動

中川義郎

最近の數十年間に異常の發達を遂げた日本の資本主義は極めて特殊な「日本的」色彩を持つてゐる。

日本資本主義の發達は、既に帝國主義の段階に到達してゐるにも拘らず、政治的權力は未だにブルジョアジーの手に移らないで、官僚と軍閥との手に止まつてゐる。從つて資本主義日本には未だにデモクラシーが存在したことがない。そして封建勢力の殘存物たる官僚と軍閥の跳梁の結果は思想的にも、政治的にも、教育上にも、總て封建主義を強制する。

日本の無產階級運動の前には、斯かる特殊的政治形態がある。從つて日本の無產階級運動は、民衆の斯かる封建的支配よりの解放を以つて、共の解放戰上の出發としなければならぬ。

共產主義の運動は、徒らに現實を飛びはなれた主張の下に赤旗を押し立てることではない。眞實の共產主義者は、共の徹底した理論を現實に當て嵌めて、大衆を共產主義の下に糾合し、一歩々々と終局の目的に向つて前進させることである。

共產主義者は理論的には徹底してゐなければならぬ。それは彼れが或る形勢に眩惑されては、オポチュニストとなる危險があるからである。然しながら大衆の欲するところのものは、理論ではなくて實際である、一般の大衆が未だ封建的勢力の支配を脱せずして思想的に全く之れに隷屬してゐるとき徒らに高遠の理想を說く前に、彼れ等大衆をして、眼前の事實より、一歩一歩と封建勢力の支配を脱せしむべきではなからうか。

無產階級の解放運動は、常に少數の戰鬪的分子、即ちその前衛と、之れに續き、これを支持する大衆、即ちその本隊とから成る、少數の前衛は常に革命的で一般無產階級を指導すべき任務を帶びてゐるが、此の前衛ばかりが如何に革命的であつても、戰鬪的であつても本隊が之れに續かずしては共產主義の運動は決して大衆的の運動となることは

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

出來ぬ。ブランキズムとコンミユニズムとの差違は實に此の點に存するのである。

ところが資本主義日本の現状はどうであつたか。日本の少數進歩分子は、思想的に醇化され、小ブルジョアの思想と自階級の思想との區劃をはつきりと意識した。けれども此の思想的醇化の結果は本隊たる大衆の實状と生活とから可成りかけ離れてゐた。吾々は此の具體的事實をはつきりと看た。

そこで從來の戰鬪的革命分子は、此の形勢の下に何を爲すべきであるか、それは云ふまでもなく、自己を支持すべき本隊を組織して、官僚、軍閥の封建分子と、地主其他の大ブルヂョアから之れを引き離すことである。普選の豫想に基く無產階級的政黨組織の運動も、此の表現に外ならぬものであり、斯く觀ることに於いて始めて其の歴史的意義を認めることが出來る。

此の政黨―勞働者、農民、・水平社、一般の無產智識分子を包含した大政黨…は此の意味に於いて、包括的にして、全無產階級的なることを其の必要條件とする、然し此の政黨の包容する分子が廣ければ廣いのに從つて、所謂本流を踏み外づす危險は增大する。然しながら運動の此の形態は歴史的に必要とせられた運動の一形態である。此の形勢に處するコンミユニストの態度は、此の運動の中心勢力として、之れを正しく終局的の目標に導くことにあらねばならぬ。

パアリアメンタリズムの新意義

島中雄三

私は、無產階級解放の運動は、經濟運動を主張とするものであると確信してゐる。政治運動はそれに對して從的地位を占むるものであると信じてゐる。

近來日本の社會運動者の間に、政治運動の頻りに力說せらるのは、これまであまりに經濟運動にのみ重きを置き過ぎたサンヂカリズムの思想的影響に對する一時の反動であつて、正しき潮流ではない。

勿論政治運動は常に經濟運動に先行する。經濟運動の進路を開き、その發展を助成し、最後に革命的使命を完成せしむるものは、常に政治運動である。そして或る時期には、この革命的政治運動が、無產階級そのもの〻如くに投影せらる〻場合がある。たとへば一九一七年における勞農革命の如きである。しかしロシアの場合は姑く例外とし、普通の状態においては、革命的政治運動が成功するまでには、經濟運動が七八分通り成熟して自然に革命的政治運動を必要とするまでにその組織と實力とが充實してゐなければならぬ。即ち政治的直接行動は經濟的直接行動の必然の延長乃至擴大であり、同時に、またその完成のための前提である。

日本では、革命的政治運動を必要とするまでに、もつと正しくいへば、革命的政治運動を可能ならしめるまでに、經濟運動が成熟して居らぬ。その組織と實力とが充實して居らぬ。端的にいへば、現在の日本では革命的政治運動は不可能である。そして、不可能なる事業に精力を注ぐことは不必要である、必要なることは、それを可能ならしむる條件としての經濟運動の成熟である。それの組織と實力とを充實せしむることである。

そしてそれが爲めの前提としての政治運動、政治的直接行動に對する政治的間接行動である、つかひならされたる言葉でいへばパアリアメンタリズムの運動である。

私のこの意味からから、コンミユニストの政治行動を採らない。むしろ、今の場合は之に反對する。それは時期が到つてゐない。社會的條件がまだ備はつてゐない、組織と實力とが充實してゐないといふ理由の外に、さうすることが一つの戰術でもあると信ずるからだ。即ち日本の現在において及び近き將來において、起らうとしてゐる運動、起さなければならない運動は、コンミユニストの政治運動ではなくして、デモクラシーの運動である。議會の立法機能によつて無產階級の利益と權利とを伸張することを直接の目的とし、此の目的にかくれてブルジョア政治の現實を曝き、それによつて一般無產大衆を教化し訓練するを旨とするパアリアメンタリズムの運動である。

人は、或は言ふであらう。パアリアメンタリズムは、議會政策によつて社會革命を遂行せんとするところにその意義がある。然るに、議會政策の效果を認めない君が、果して能くパアリアメンタリズムに立脚し得るかと。私は、出來ると言ふ。其の理由は、この運動が思想運動でなくして現實の大衆運動だといふことで答は足りる。

○

近く普選が實施せられるであらうとの觀測から呼び起された新機運は言ふまでもなくデモクラシーの運動である。そしてそれは、一つはブルヂョア、デモクラシーの擴大であり、一つはソシアル、デモクラシーの新生である。果して普選が實施せられた曉には、此の兩者の爭ひが可なりはつきりしたものになるであらう。新らしき選擧場は、こ

の兩者の爭奪戰によつて活氣づけられるのであらう。

ソシアル、デモクラシーの思想は、本質的にはプチ、プルジョア的のものである。けれどもその實際運動は、必ずしもプチ、ブルジョアの階級的利害を代表するものではない。否むしろ、プチ、ブルヂョアの當面の利害を無視するところに、その反撥を招くべき要素をもつ。プチ、ブルジョアの、プチ、ブルジョア的經濟利害から出發した思想ではなくして、反つて無產階級的正義の觀念に立脚するものであるからである。その運動が何處まで發達し成功するかは實は疑問であるが、とにかく現在において、無產階級の階級的利害を政治的に表現するためには、此のプチ、ブルジョア的正義觀念に出發したソシアル、デモクラシーにその方途を見出すより外ない。

そして徹底的な階級的自覺と階級的心理とと裏づけられた眞の無產階級的政治運動、卽ちコンミュニストの政治行動が實際的に效果を現はす時期は、私の見るところでは、まだ／＼容易のことでない。

○

そこで、新たに起るべき又起さねばならない政治運動はブルジョアーデクモラシーに對立すべき無產階級のデモクラシーである無產階級の經濟利害を代表するソシアルデモクラシーである。それはプチブルジョア的正義感と無產階級的利害との結合により生れた運動であつて、徹底的な階級意識と階級心理とから生れたものではない。けれども、苟もそれが無產階級の利害に立脚するものである以上、そしてそれの發展のうちに眞の無產階級的政治運動を育み經濟運動の進路を開き、一般無產大衆の階級的意識を喚び覺ます上に、多大の效果をのこすものである以上、之を以て直に無產階級の政治運動とすることに何の不都合もあるべきではない。少くとも日本の現在において、議會主義以外の政治運動卽ち街頭運動の效果の極めて微弱たるべきを豫想せらるゝ現在において實際上無產階級の政治運動と呼ばるべきものは、ソシアルデモクラシーの運動を外にしてあり得ない（といつては語弊があるかも知らんが）といつてもたいして過言ではなからうと思ふ。

遅れたる海上の勞働運動

郵船丁丸　吉田　隆

「日本海員組合は其の創立せられる時我等に對し「海員の使命と地位を自覺すると共に政府當局及船主の諒解を求めそれによつて「海員共同の福利增進」と「我等同胞の活路確保をなし以つて「帝國海運の基礎確立と擴張」に效力することを宣言して居る。かくて我等多數の勞働海員は國家海運の美名の下に、空しく搾取と掠奪の犧牲になつたものである。

ブルジョアの獨裁狀態である日本の政府に何のために日本海員組合は「諒解」を求めんとするか。世界一の民主國に於ける亞米利加に於てさへ勞働者の上には尙貪慾あくなきブルジョアの搾取の手段は常に加へられ、勞働者は尙奴隷の鐵鎖に繫がれて居るではないか。所謂ブルジョア政府の言ふ自由平等とは彼等のための自由平等であつて、如何にブルジョア、デモクラシーが現實となつても、尙彼等の搾取の形式は其の形をかへるのみであつて更に新しい殘忍なる掠奪の方法は勞働階級の生活をより多く脅威するだらう。

海員組合は「政府」に「諒解を求める」のみならず更に「船主に諒解を求め」それによつて「我等海員共同の福利增進擁護のため」と「我等同胞の活路確保のため」と更に「帝國海運の基礎確立及擴張のため」に努め、それによつて「海員の地位を向上せしめ生活を安定せしめやうとするのである。

現在の日本の國家を形づくる彼等でさへ國家海運のために營業して居ないのに、現在の國家から搾取と鐵鎖と牢獄の外何者をもめぐまれなかつた我等が、何のために國家海運の美名の下に即ち彼等の言ふが如く更に「技術を鍛錬し船內秩序を重んじ、健康を保持し、勞働能率を增進せしめて彼等の搾取に甘んじなければならないのか。今やブルジアは其の全力をあげてプロレタリア階級に對し攻勢にうつつて居る時、何故に我等はブルジョアの政府と當面の我等の敵である船主とに「諒解を求め、福利增進を計る」ことをしなければならないのだらうか。深く考へる時、それは我等に對し「汝等永遠の奴隷にたれ」と强要するものに過ぎない

亦彼等は「帝國海運の基礎確立擴張」と「我同胞の活路確保と開拓」を計ることを重要なる綱領の一に上げて居る。此を見る時彼等が明かにまだ古きブルジョアの帝國主義、侵略主義を夢見て居ることを知る。然し我等は欺されてはならない。我等の敵は我等同民族の中に巣喰ふ有產階級である。彼等は常に我等を虐使し虐待しそして搾取し掠奪したもので贅澤三昧にひたつて居ることを我等は知らねばならない。

全國の海上勞働者團結せよ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

普選實施と無產階級政治運動の究研

一、議會運動の社會改造運動に於ける價値。
二、勞働組合が中心となつて政黨組織に着手する事の可否。
三、政黨と勞働組合との關係。
四、來年の總選擧までに政黨が出來なかつた場合、其總選擧に對して勞働組合は如何なる態度を取るべきか。

問題の要旨

普通選擧實施の豫想が確實になつて來ました。秋に當り、日本の無產階級運動も、其戰術に於て甚分の變化が來るべきものと思ひます。御多忙中甚だ恐れ入りますがこの問題に對する貴意を得たく存じます。

○

羽生三七氏

一、議會運動とある以上、其れは議會主義を指すのではなく革命的プロレタリア運動の一政策としての議會行動でせう。してみれば、どの道其れは議會內部に於ける價値論ではあり得ない。私は議會運動が持つ價値としては要するに大衆に與える刺戟にあると思ひます。

二、可否の問題あり、寧ろ如何にして、其してどんなものを?の問題ではないでせうか。

三、四、共に決定的な考へは持つて居りません。否全く無智と云つたが適當でせう。兎に角普選で大衆が墮落すると云ふ風な泣き事は聞き飽きて居ます。進んで問題を解決せされば、政府が勝手に利用するでせう。

○

今吉一雄氏

一、經濟的に優越せる者が政治的權力を掌握いたします從つて經濟戰ならぬ政治的鬪爭は社會改造の水平以上には絕對に出ない。無產者階級の地位の改善は、社會改造と言ふ大なる事業に對しては、その熱烈なる意識を鈍らす點に於て反比例する、故に政治革命を(階級鬪爭の究極)おいて他に改造の道はない。

二、選擧權擴張に基くブルジョアー左傾分子の企劃、所謂無產階級を代表すると言ふ政黨の存在に對しては觀過する事は出來ない此の意味に於て吾等は自ら進んで政黨組織をなす必要がある政黨の精神反議會主義賀黨員は組合員にして純無產階級に屬する者。

三、總同盟が公認したる政黨と言ふ關係

四、普選が確實に施行される迄は如何なる運動にも着手する事を好まない。

○

田口總造氏

一、從來社會改造運動は經濟鬪爭のみの力であつたが議會運動も經濟運動の一助で戰線の擴張とも見られる、

二、勞働組合中心の政黨組織は不可である、勞働組合は普選實施以前の精神と同じ、政黨は組合の別動隊としてなければならぬと思ひます。

三、政黨と勞働組合は蓮を折つて糸を引くが如し。

四、來年若し普選で違るなれば勞働組合は投票を纏め犧牲的候補を立て投票するも一策ならん。

○

淺原健三氏

一、私の○○への軌道には議會と云ふ引込線を絕對に設計してゐません。

二、勞働組合の對議會運動―利用(震災)=是認―の背後に後藤、山本の嘲笑した顔が見へる。ズウと奧には三井、三菱のホクホク面もチラック側面からは協調主義者、曰く仏々曰く、何々曰く、曰く○○、曰く△△の馬鹿バヤシが聞へる。智識階級復活萬歳の彌次も飛ぶ。

三、革命的勞働組合!急げ!急げ!普選が逃げるぞ。

○

加藤勘十氏

一、全然無價値だとも考へません。

二、勞働組合全部を擧げてこの着手には反對です。

三、勞働組合內に政治部委員を設けて折衝の任に當らしめ、勞働組合の全般的活動に支障を生せしめないやうに關係を保たねばならぬ思ひます。

四、政策との戰線擴大に伴ふ僚友の範圍は必然的に擴大すると思ひますから○○○に於ける○○を指定して組合員に指示するがよいと思ひます。(即ちこの場合でも○○○の宣傳は可なりな危險が伴ふと思ひます)が出來なかつた場合、勞働組合はその立場に近い人、又他日社會黨でも出來る時這入つて來そうな人を援より外にないと思います。

○

新居格氏

一、局面を廣くする意味に於て議會運動の社會改造運動に於ける價値を認める。

二、勞働組合が政黨組織をするとそれは詰り勞働黨の樹立になる譯だがそれと農民運動、無產智識階級など、どう云ふことになるか、勞働組合は組合としての一部が後の二者とある一團に成つて社會黨のやうなものにするか、これは考究すべき大問題と思ひます。

三、政黨と云ふのは既成政黨の意味でせうか、新に組織さるべき意味の政黨でせうか既成政黨であるならば先方が利用される場合、又先方が組合の主張にかたむいた時丈け好意を示せばいゝのではない

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

でせうか。

四、普選實施して政黨が出來ぬ場合立場に近い人に投票

○　鈴木茂三郎氏

一、議會行動に無產階級解放の最後の望みをつなぐ事は絶對に駄目である、然し日本のやうにブルヂョア政治組織の遲れた國に於ては、之れを利用して解放運動の爲に無產階級の生活條件の幾分の改善の爲に運動の價値がある。

二、無產階級の運動は結局は政治的鬪爭である、とすれば政黨組織は勿論急務であり積極的にしなければならない

そして、組合の量的運動の爲にもその必要がある

三、組合と政黨とは密接なる聯絡關係を持たねば成らないが、然し運動の上に於ては二つのものが存在することの意識をはつきりと區別しなければならない。

四、政黨が出來無いとして普選が現在の儘にて、選擧が行はれるかによつて、戰術は異るが、大體少數の候補者を擧げ、又は同情者を適宜の方法にて極力應援する事に仕度い。

○　小牧近江氏

一、議會運動を過信してはならぬこと

二、數にもよる事だらうが結局政黨の組織となるだらうが黨員は絶對に組合の意志に從ふ所の政黨である事

三、妥協排す可し。

四、普選になつたら傍觀的態度を採らぬこと。

○　山崎今朝彌氏

一、水は毒にも藥にも成ります、議會運動も社會改造に價値もあり、妨害にもなります。

二、東京の勞働組合から此の質問があればソンナ事より組合の會合にセメテ平素の十分の一も出る樣な運動をしたら如何ですと答へます。大阪の某組合からの質問なら、先生候補者にでも成り度いのだなと思ひます、總同盟でも外にまだ適切の仕事は無いでせうか。

三、性質上何かの關係あるものでないと思ひます。

四、組合として一致した行動を取り度い。比較的よい候補者なら棄權し度い。絶對よい候補者なら一致して投票仕度い。

○　北澤新次郎氏

一、議會運動は積極的の効果あるものでは無いが、消極的の効果はあると考へます、故に其れに主力を注ぐ事は愚の骨頂ですが或程度迄注意を拂ふ事が良いでしよう。

二、勞働黨を組織して勞働組合の利益を增進させ、資本家階級の專恣を防止するのもよいでせう。

三、勞働黨をコントロールする實際的經濟的實力が肝要です。

四、勞働組合は政治運動に有頂點になる事は不可であるが、排斥するのも不可、勞働組合運動を一步でも先に成る樣に仕度い。

○　馬場恒吾氏

一、議會運動は勞働運動に効果がある、第一無暗に檢束されない丈でもよい。第二は勞働運動の宣傳になる。

二、勞働組合は直接に政黨組織をなす必要なし。

三、政黨と組合の關係は左圖の如くなる可し。

四、政黨が出來なくても組合は組合に有利なる候補者を立てる方が良い。代議士が出來て後に政黨は出來るものである。

○　島中雄三氏

一、徹底的なる社會改造を議會運動にのみ依られんとするは固より不可、これ餘りに議會主義の價値を重視し過ぎるものである。しかし或る程度までは、其して或る時期迄は社會運動は議會主義によらざるべからず。日本に於て議會否認の思想は三十年早しと云ふ。

二、政黨組織を可とす

三、勞働黨は勞働階級全體の利益を議會に代表するものである。故に當然勞働組合の後援の下に立たざるべからす しかし勞働組合運動の原理は依然として直接行動にある。

四、勞働組合より候補を出すべし、若し適當なる候補者を得ず他にこれと云ふもの無い時は棄權の外なし

○　藤井眞澄氏

一、社會運動者自身に取つて現實的な力の鍛鍊を與へる効果がある。

二、勞働組合運動の純眞を多少害するが、其代り組合員の實際敎育になる。兎に角、「やつて見る可しと思ふ。實行仕無いで恐れてはいけない。

三、勞働組合から生れた純粹なる政黨に限る。移入候補者やブローカーの政黨は絶對に不可。

四、組合員全部極力實際政治を研究す可し。

○　三輪壽壯氏

一、萬能でないといふ事は恐らく社會改造運動の見地から政治行動を論ずる人に異論のない處ではないでせうか。けれ共私はかへつてその價値を低く見積りすぎてといふよりは始めから馬鹿にしきつて之に對する事は策の得たものではないと考へます、右は普通選擧實施後の議會運動を勞働運動の見地から考へたのですが一體日本人は『諦め』がいゝと共に『見切り』をつけるが早い爲當然通らねばならぬコースを回避してまた逆戻りするといふきらいはないでせうか。だから駄目なものにしてぶち當つてみて先を

考へるのが實際的だと思ひます。

二、總同盟としては今すぐ組織に着手するの要はないでせうが必然そこに行くでせう積極的に組織することは可と考へます。

三、既成政黨に關係せず新政黨を組織することゝ尚此の御質問の趣旨は勞働組合が積極的に組織した政黨と組合との關係でせうが、組合が主で政黨が從、組合より政治委員又は議會委員を出して對議會の政綱政策をたてしめ組合幹部の職務と泥同させぬやうにせねばならぬものではなかろうか、又組合員個々が政黨に入るのでなく組合の或單位が入黨するの形成がよくはないか、其他……

四、普選で總選擧といふ豫想でせう。總同盟を對照とした議論が出て困りますが總同盟の如きは組合の中から候補者を立てゝも或は當選するかも知れませんが少くとも今度丈位は自重して組合に關係ある有力者を公認候補として應援する程度が穩當かと思ひます。そして政黨組織の機會を作るし又組合と政治運動との實際現象を實際に見て確なる態度をきめて遲くはないと思ひます。

○　安部磯雄氏

一、其價値の最も大なるを認めます。

二、結局は勞働組合が政黨を組織すべきものと思ひますけれども餘り急ぐ必要はありますまい時機の問題。

三、政黨は末であり、勞働組合は本でありますからよし政黨が倒れても勞働組合は動かぬように心掛けるのが必要だと考へます。

四、政黨は急がなくてもよいのですが勞働組合は大團結をなして先づ出來るだけ多くの代表者を選擧する必要があります。當選した代表者の數が少なければ、一時最も勞働問題を理解せる既成政黨に屬するがよいと考へます。

○　藤森成吉氏

一、あまり多くの價値を認めません。

二、弊害の方が多いと思ひます。

三、政黨なぞ無視する必要があります。

四、御質問の意味不明

○　奧田宗太郎氏

一、反議會主義の下に議會運動を階級鬪爭の一場面に利用する意味にて價値あり、投票權行使說多數。

二、有象無象に依つて設立される及び既設のブルジョア民主主義の僞黨に依つて民衆が惑亂さるゝ怖れがある故に組合を基礎とし、組合の有志に依つて積極的に組織するを可とす（候補者は當然組合員たる事）

三、組合が政黨を公認する事。

四、直に準備に着手し、普選施確定後直に組織する事（其他の場合は無干涉說多き見込）

右神戶聯合會一般の意向。

○　木村重次郎氏

一、議會に無產階級の代表を送るも絕大多數を占むる迄大なる價値はありません。

二、勞働組合が主義政綱を定め法律の範圍內に於て結社し大同團結に一步を進めたいと思ひます。

三、主義に合する理想的政黨を極力援助し其の發展を期すべし。

四、主義に合せざる政黨及び候補者には投票せざる事、組合より理想の候補者を擧げ極力戰ひて無階產級の地盤を作り政治訓練をするを可なりと信じて居ます。

○　高橋秀生氏

一、社會改造運動として今日の議會は其の價値無し。

二、勞働組合は勞働者の解放に向つて直進せよ。普選はブルヂョア支配者の吾等勞働者を落し込まんが爲めに掘る陷穴なり。其の陷穴たる普選に對して積極的に政黨迄組織して多數で落ち込んで行く必要が何處にあらう野心家は一人で行け、忠實なる勞働者よ組合をして普選を排斥せしめよ。

○　木村鈴六氏

一、プロパカンダに利用する位のもの。

二、可。

三、勞働組合を基礎とした政黨と連絡する事。

四、組合中より代議士を出しプロパカンダを爲さしめる事。

○　和田　光氏

一、この問題は、僕らの間ではきまつてついて居ると思ひます。ブルジョアの政治の本質を大衆に知らせる程度でせう（現在の日本ではこのことが肝要であります）

二、差し支へありません。

四、吾々の意志を代表する第三者を選擧するがいゝと思ひます。場合に依つては組合の中から選ぶもかまひません

○　前田河廣一郎氏

一、政治が人間生活に對して有する働きに應ずるだけの價値。（此の政治は必らずしも現在の議會政治に指呼するに非らず）

二、可

三、勞働黨樹立說に贊す。

四、食込み制策を講じてどし〳〵議會運動に參與し、除々に引締め主張をとつて政黨硬化を待つを適策と思ふ

此答案は昨年十月京都聯合會內普選研究委員會の出題に諸家が答へられたるものを同委員會より讓り受けたものである。發表するに就いて、一應諸家に其由を申し上げるべきであつたが、時日が無いので失禮した。何卒御諒解を願ふものである。

水平運動

水平社青年運動と批判

木篠長兵衛

（一）

俺等は穢多だ！、穢多で結構だ！、今に見よ、俺等穢多が社會から尊敬される時代が來るのだ。長い間虐しめられ賤しまれて來た俺等穢多が、歴史の必然的な進化の過程に果さなくてはならぬ光榮ある使命を擔つてゐるのだ。

俺等も人間だ！、そして穢多であることを誇り得る時代が來るのだ。

大正十一年三月三日。この日こそ『地下に呻く幾千萬の祖靈を吊ふ祭壇の前に』三百萬兄弟の先驅者が血涙を拭ひつゝ、過去幾千年間に於ける支配階級の暴状をなじり、加ふるに明治革命後の部落民の地位を明らかにし、政府が僞善的改良家の凡ゆる政策を批判し『特殊部落民の解放は部落民自身によつてなさねばならぬ』と決議した。

思ふに過去二ケ年間に於ける水平運動は燎原の火の如き勢で全國致る處の津々浦々にも『特種部落民よ團結せよ』の成聲は響き渡つた。老年も青年も婦人も少年も、眞黒の中に血で染めぬかれた荊冠旗を高く捧げて『よき日』の爲に聲援した。

官憲とその手先である反動分子の暴壓手段も我々部落民が過去幾千年の間に甞め來つた苦い經驗に基く火の如き行動の前には山中の案子より以上に無力である。

（二）

水平運動の第一歩は量より量へと部落内部に對する凡ゆる階級に對する宣傳であつた。荊冠の旗幟のもとに馳せ參じた部落民兄弟は、水平社の綱領

一　我々特殊部落民は部落民自身の行動によつて絶對の解放を期す。

二　我々特殊部落民は絶對に經濟の自由と職業の自由を社會に要求し以て獲得を期す

三　我々は人間性の原理に覺醒し人類最高の完成に向つて突進す。

を遵守し水平社會目標として進んだ。然しながら我々が獲得せんとする新社會に致達せんには幾多の障害物がある我々はこの障害物を突破せなければならぬ。

水平運動の第二歩は教育と組織的訓練を重視せなければならぬ。この重大なる使命は只部落青年の努力に待つのみである。

全國水平社青年同盟が生れた。勇敢にして純眞なる部落青年が自己の使命に目醒めて全國に散在する特殊部落に警鐘を亂打したとき幾千年間打縛られてゐた鐵鎖は断ち切り得るのだ。

（三）

水平社の青年同盟は教化し組織的訓練をモットーとして組織された。その完全なる組識は教化によつて部落民大衆を訓練し得ることは明白である。然らば教育とは何ぞ、特殊部落民の歴史的使命の覺醒これである。

水平運動は幾千年間歴史的傳統に對する雪辱戰である。しかも單純なる復讐の域を逸に越へて『人間性の原理に覺醒し人類の最高の完成に向つて突進する』と云ふ綱領によつて行動してゐる。

差別的言語に對する『徹底的糾彈』によつて無智なる一般民を覺醒せしむると云ふ消極的な運動でなく、またこれに滿足するものでなく、特殊部落の制度を支持するものは資本主義であることを知らねばならぬ。

部落民の歴史的使命は、新らしき黎明の社會、即ち水平社會の建設である。この水平社會こそ全人類が同一水平線上に浮び上り無支配、無搾取の社會即ち共産主義社會であらねばならぬ。

資本主義の滅乏と無産階級○○は、我々部落民を解放せしむることは必然である、然れども消極的なるを免れない。部落民が水平社會の建設に重大なる使命を果した時、社會から尊敬され眞實解放されるものである。

部落民の歴史的使命は明白である。我々は資本主義と闘爭せる凡ゆる階級と提携してプロレタリアの○○の遂行に努力せなければならぬ。そして從來取り來つた傳統的觀念を一掃し全プロレタリアの戰線に參加して資本主義の牙城に突撃せなければならぬ。

水平社の青年運動こそ完全に特殊部落民を解放せしむるものであらねばならぬ。

未來は青年のものである！

特殊部落青年よ團結せよ！

▼

龜井戸事件犠牲者遺族見舞金は諸君の熱烈なる御同情に依つて寄附金も大分集りました御芳名及其の經過は三月號の紙上を以つて報告します。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

農民運動

農村の危機と小作運動の使命

岩崎 哲

【一】

挽近、農場の經營企業も粗放的より集約的に改變され、自然科學の智識は農產技術の改良をうながし、農村の生活に於ても文化的設備の應用され居る點は昔日の狀態と比するならば誠に進步の跡を觀るのではあるが、尙且つ割合に不振衰微の兆を認むるのは事實である。無論その國その地方に依りて大いに異なるも、商工業の殷盛なる國卽ち、資本主義の發達せる國ほどその現象が鮮かである。夫れは都會が農村を搾取するといふ一般法則を語るものである。然らば或る論者は、次の如く否定するものがあるであらう。「農村が衰微するならば、都會もその繁榮を維持することが出來なくなる。そして農業は一般に國家存立の基をなすものだ。されば都會は農村を見殺しにする筈はない」この論法は一面常識的立場からして說かれて居るが現代資本主義社會組織の本質を無視したる所の俗論である。何故なれば、資本主義制度なるものは、元來出來得る限り多くを搾取することを原則とするものであるからである。それは丁度工場に於ける勞資の關係に等しい勞働者がなければ工場の運用は覺付かない。でも勞働者は餓死せぬ範圍以上には報酬を與へられてゐない。同樣に現制度の下には農村は飢餓を危かれる範圍以內に於て搾取せられつゝ居るのである。そして農村は斯く都會から搾取せられながらも資本主義化して來る農村に於ける資本主義化の現象は、土地の併合及び中小自作農の無產者化として示される。この現象は言葉を換へれば卽ち農村の階級的分裂である。

米作不良、及び米價問題などから來る農村の經濟的破綻は中小の自作農を困究の極に落し、土地は大資本の手に益々集中せられる。そして之に伴ふて農民離村の傾向を激成する。土地を失ひたる者、向上の望みを村落に於て絕たれたるものは都會へと流れ込むのである。この現象は農業勞働者の素質を低下せしめ、その量を不足にして、宛ら農村が滅亡の道程にあるかとすら思はしむるのである。階級的分裂を惹起せる農村に於ては地主對小作人が、都會に於ける勞資の鬪爭と等しき階級的爭鬪の幕を切り落してゐる。最近頻繁に起る小作爭議がこれである、階級鬪爭なるものは、資本主義制度の所產ではあるが、同時にそれ自身が資本主義制度を破壞する素因である。されば階級鬪爭の實在は現制度の沒落を暗示するものといふことが出來る。たとへその道程に於てそれが如何なる經路を通るかはその國その地方に於て異なるも、階級鬪爭の到達すべき終點は明らかである。

【二】

我が國の小作制度卽ち農村經濟關係は、小作人に取りて非常に不利なものであるが、地主に對してすらも餘り有利なものでない。それは都會の商工業會社の如く莫大の收入利益を地主に與へて居ない。此の點から見ても、農村の階級爭鬪が、小作爭議として一度び演ぜらるゝ時は必ずや激烈なるものと化するに相違ない。何故なれば、地主が割合に薄利の爲め都會の資本家の如く慈善的讓步を小作人に與へて溫情的小康調和をなす餘地がこゝに存して居ないからである。尙又た政府當局が施さんとする彌縫的社會政策は現代資本主義の本質から來る階級的分裂を防止することは絕對に不可能であり從つて農村に起るこの爭議を圓滿に解決することは絕望の技である。であれば兩者の衝突が激成せらるゝことは避け難き成行きであり、その終局は小作制度の崩壞を見なければならない。小作制度の崩壞は何を意味するか？地主の滅亡か小作人の勝利か、小作人の消滅かでなければならない。然るに小作人の消滅は農業勞働者の消滅を意味するものであり得べき筈がない。この爭鬪の結果は、地主と云ふ不勞所得に依る階級的特權が收奪せらることになるに相違ない、それは社會制度の破綻であつて農村に於ける資本主義制度の崩潰を自ら物語るものである。

地主が、どんな考へと、どんな態度で自覺せる小作人の行動に應戰するか、この一端は地主政黨を以て任ずる政友會の地方政治の方針に依つても示されて居る、地主は、あらゆる壓迫の手段と懷柔策を併用して、小作人の團結をさまたげ、小作人組合の公認を拒み官憲の援けを借りて小作人の鎭壓に全力を盡して居る。そして小作人等をして出來得る限り政治參與權から遠ざけんとして居る。政友會が普通選擧案に反對するのもこれが爲に外ならない。

時代は急速な加速度を以て進展して居る。壓迫は反逆心を養成する。

小作人は、不勞階級なる

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

地主の横暴を憎み、現代の矛盾せる社會制度の缺陷を認めて對抗せんとして居る。小作人は常に絶對多數である。そして金力と官憲の後援ある地主に對して多數の團結せる組織力を以て之れに對陣するであらう。

【四】

最近、全國的に亙つて頻繁に小作爭議が惹起するに至つて、地主階級は勿論のこと地方官憲のこれが鎮壓防止策に吸々たるものがある。例へば地方官吏などは小作爭議の鎮壓の手腕の如何によつて、彼等が進級或は罷免せらるゝのが常である。地方官吏は、小作組合の數や、爭議の件數を隠弊して、欺いた報告を上級官廳にするものが増えて來た又た地主等も彼等の利害の立場から地主同盟を組織して、僞善的懐柔策をかざして小作組合の切り崩しに努力して居る。

日本で小作組合が最も多く組織されて居る地方は、大都市を中心として居る地方であつて、中部では、岐阜、愛知、關東では埼玉、群馬、關西では兵庫、岡山、最近また北陸九州にも小作組合の組織を見るに至つた。そして全國での總數は約九百を超えて居る。爭議の件數も甚だ増加し、今年中の爭議の最も多數にあつたのは岡山縣であつて六百三十一件であつた。勿論その小作組合の數字の中では甚だ保守的な反動のものもあり、或は妥協主義の組合もある。或はまた地方の政治的山師の地盤獲得の具に欺用せられてゐるものもあるがこゝ十年にしてかゝる數字の増加を示したとは何を物語るか。

地方官憲が、農村振興といふ美名の下に、小作人に加へつゝある壓迫と、地主が施す惡辣なる手段とは、反つて小作人を階級的に自覺せしめる都會の勞働運動の優勢なる潮に感じて農村の青年は社會改造の道程へ旅立ちつゝある。地主と小作人の利害の異なる二つの階級の決定的の衝突は必ずや遠からざる將來に惹起せらるゝに相違ない。それは何時來るか。明日か。將た十年後か。何人も明言の出來る筈はないが必ず何處かに起るに相違ない。

そこで、小作人はその準備へと急がねばなるまい。當面せる緊急の問題より一歩一歩を進まなければならない。それは經濟的分野に於ける行動のみでは小作人の勝利への到達は甚だ至難である。それで政治的にも、經濟的にも小作人階級の強き團結せる組織力によつて前途の難關を突破せなければならない。

【五】

日本に於ける小作人組合の態度を見るに、小作人對地主の關係は既に情誼的關係より權利義務の關係へ、主從關係より對等的關係へ移つて居る或るものは敵對的位置を示して居る前衛團もある。

元來、小作運動は窮乏の小作人が生活狀態の向上改善を欲し、奴隷的境地からの解放を要求するところから起つて來る。だから小作運動の初期においては都會の勞働運動の初期に於けると同樣に純然たる經濟運動である。そしてその主張も生活の物質的要求である。この程度に於て日本の小作組合が主張すべき二三の例を擧げて見やう。例へば、米納制度を廢して金納制度の採用、これは小作料として米納する爲め企業家でなく、生産者でもない不勞徒食の地主が宛も生産者であるかの位置に置かれ眞の生産者である小作人の利害を勝手自由に左右し得る矛循を防止し得る。小作權、團體交渉權（小作組合公認）の要求、これ等が未た公認せられて居ない爲めに地主は小作の解約權利一手で握つてゐる。そして横暴なる所の行爲に出で居るのである。だが、かくの如き初歩の要求ですらも貪欲飽くところを知らないで大勢に逆行せんとする地主等は、どの程度までこれを受け入れるであらうか。現狀維持をその職業と心得て地主（支配階級）の欲心を求むることを能事とする無智の官憲等は、此等の要求を正當視するであらうか。地方小作人等はこの要求を貫徹する爲めにはどんな方法を取るであらうか。

【六】

小作人對地主の對立が明になつた社會に於いて、小作人が純經濟的の運動のみに於いては決して現狀よりの解放することは出來得ない。この實例は先年伊太利の土地勞働者の作業地占領といふ大擾亂の失敗によつて立證せられて居る。階級爭鬪は常に政治運動に於いて最もよく現はれて來る。普通選擧も具体化されんとする今日小作人もその政治的參與權を最も有効に使用する準備をしなければならない小作運動が組合運動より政治運動に進み移る場合には幾多の危險が小作組合の内部に惹起するであらう或は政治的野心のある山師的指導者が小作人組合を利用して自己の貪慾の爲めに小作人の利害を裏切るものもあらう。或は小作人を代表する所謂小作議員の或る者は地主に買收されて、自己の階級の使命を無視するかも知れないだが斯の如き危險が伴もなふと云ふ單なる理由の下に拱手傍視を敢てする暖味なる態度で普通選擧の好機を逸するものは確に無能にあらずむば裏切り者である。普選は兎に角小作人の階級的自覺のバロメーターである。如何なる人間でも失敗は止むを得ない、然し再び起つ能はざる者の失敗は總明なる人間の演ずる筈はない。經驗はやがて來るべきその機會の成功への案内者である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

政治運動の終局は、自己階級の政權獲得である。小作人階級の政治的使命は、現在の支配階級たる地主より凡ての權力を○取するところにある。されば、小作人は都會の勞動者と同一なる政治的使命を負ふて居る。その意味に於て農村の小作人は都會の優勢なる勞働階級の援助なくして地主を倒す事は甚だ難事である。現代の資本主義制度の下に搾取せられ居るこの二つは共同の戰線を張るべき使命を有つて居る。小作人組合は勞働組合と提携すべきであり、小作人の政治團體は都會の勞働者の政治團體と相扱け合はなければならない。この平易にして當然の要件を無視しては、小作人解放運動も全く空語に終らざるを得ない。

農民と社會主義

松原充治

一

震災の混亂が吾々に示して吳れた幾多の敎訓の中で、吾々にとつて最も主要なるものは從來の社會主義運動が民衆に對して餘り効果を擧げてゐないと云ふのが、一般の議論のやうであるが、之は一面眞實を語ると共に他面誤謬を含んで居ないかと思ふ。何が眞實であるか？從來の社會主義運動は諸種の事情――極度の壓迫――日本の特殊經濟事情――のために一般民衆との手を絕たれ、殆ど孤立的の地位に落ち次第に民衆を路傍に置き忘れてゐた結果、社會主義理論に於ては何れの國の運動にも劣らぬ位の熱度を示したが、其時民衆との連鎖は既に絕たれて仕舞つて孤舟たゞ大洋の中に漂ふのみであつた。民衆迷へども弘誓の舟は來らず迷羊徒らに桎梏の步みを續くるのみであつた。確かに從來の社會主義運動は民衆に對して實質的には餘り効を奏し得なかつた。

併し乍ら我々は從來の社會主義運動のとり來りし途を再檢するの煩を避ける。唯其の誤說の一つ、最も重大なる誤謬を擧げたい即ち農村無產者を閑却した事である何れの國に何れの時代に於ても農村無產者は不遇の地位に立つて來た資本主義發達の當然の歸結が社會主義を生む關係上、資本主義浸潤の度の都會に比して後れる農村が社會主義運動に於ても自然後にされるのは無理もない事乍ら、變則に發達して來た資本主義國日本に於て、都會勞働者に比し農村無產者の占むる數字的地位を考へ、更に保守と反動の兩頭蛇が農村に於て如何なる仕事を爲さんとし且つ爲し得るかを再考する時吾々は都會の一小隅に小さき蛹を作つて滿足してゐる譯には行かない否な從來此の小さき蛹に滿足した、又滿足せざるを得なかつた獨自的誇大妄想性の非を悟つて更に一步を踏み出ださなければならない。即ち日本に於ける資本主義發達特殊の歷史と之に對する農村の地位を考へた上、運動上に有する農村の重要性を知りて後始めて吾社會主義運動は誤謬なき行路を進み得るであらう。

二

吾々は知らなければならぬ民衆とは何を指して言ふか？震災當時同志の多くは民衆の爲めに或は虐げられ、或は迫害を被つた！民衆は社會主義を知らない！故に從來の社會主義運動は民衆に對して餘り効を奏してゐない！果して民衆は斯かることを爲したか。我社會主義の對象とする民衆と同志を虐殺し迫害した民衆とを同樣の切符をもつて通過せしむることを肯じないものである。その譯は社會主義の對象とする民衆が赤切符ならば後者は白切符、靑切符又は白、靑の切符たらん事を希ひつゝあるものである。即ち彼等は階級意識が異る所の資本家、小資本家を中心とした資本主義的心理を有する小商人並に之等を取り圍む寄生蟲どもであつたのだ。之等を稱して民衆と言ひ得るか？之等は言ひ得ない。我々の對象とする民衆は都會に於ける無產勞働者及農村に於ける無產農民でなくてはならないのであつて、此民衆を中心として如何に動くかゞ問題ではないかと思ふ。

都會に於ける無產勞働者に就いては語るに其の人あり。又其の多くを語られてゐる。併し乍ら農村に於ける無產農民は如何に考へ如何に理解し如何なる要求を有するかに就いては吾々は學ぶべき多くのものを有する。

三

幸か不幸か日本は軍國主義といふ言葉が當篏まる。軍國主義は步を多く並べて王、金銀を守る必要がある、從つて封建時代の武士と云ふ職業軍人のみでは足りない所から軍國主義の建設者はその市場を農村に需めた。かくて爾來無產農民は出でゝは兵士となり集團的訓練を受け力の所在を知得し、入りては農村に於ける中樞分子となることが出來た。軍國主義者は此の力の所在を更によく知得してゐたが故に、鄕に歸つた兵士を組織して在鄕軍人會と爲し、他方官僚の手によつて作り上げられた所謂官製靑年團と相俟つて萬代不易の黃金鄕の基礎工事を据へ附けた。爾來幾春秋彼等は其の高樓に蟠踞して專恣を極めてゐる。此の間に處して我が社會主義運動は此高樓に對して一矢酬ふ所がなかつた。時と無智との爲めに。

併し乍らマルクスは敎へた「物質的生活の生產方法は一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

般に社會的、政治的及精神的の生活過程を條件づける。人類の意識がその存在を決定するに非らずして、寧ろ之に反して彼等の社會的存在がその意識を決定する」と、げに無產農民大衆の物質的生活の窮乏とその社會的存在とは軍國主義者の意識に無頓着に、今や社會的、政治的及精神的の生活過程とを條件づけやうとしてゐる、言を換へていへば在郷兵士は在郷軍人會の意志と反對に立ち、地方靑年は官製靑年團の存在に無頓着であり、更に無產階級意識の上に立つて昂然と赤旗を飜しつゝある。軍國主義者の施した基礎工事が半ば傾いて時は正にその倒壊を待ちつゝある。

かくて王、金、銀を守護して戰ひ、斃れ傷づき、更に之を名譽と信ずるやうに設けられ育てられた歩は最早やそれを潔ぎよしとせなくなつた。自己の生活意識の爲めに同じく無產階級相互の爲に戰はねばならぬことを意識した。之は事實である。吾々は地方農村に於ける在郷兵士の間に無產農民靑年の間にその實例を有する。即ち彼等在郷兵士は郷に入りては、地主に對する小作人階級の階級鬪爭の渦中に投じ組合を組織してその中心となり、靑年は農村改造の使命を敏感に意識して農民運動の前衛となり小作組合の內外に活動する、之等の人々の多くは時代思想に醒め社會主義の何たるかをよく理解してゐる。震災後會つた多くの農村靑年及在郷兵士は震災當時に於ける勞働者、鮮人、社會主義者に對する官憲、軍隊、都會市民の非人間的行爲を憤激しつゝある。ある一村の小作組合長及其幹部は當時率先して自警團を作つたが、一度勞働者、鮮人、社會主義者に對する非人間的行爲の傳はるや僅か二三日間にして自警團を解散して仕舞つた理由としては少くも吾々無產階級の同志或は同じ境遇にある者に對して斯くの如き壓迫を事實として耳にした時、最早や自警團を組織して警戒するの愚を悟つたからである。彼等在郷兵士無產靑年は地方農民運動の中樞となり、農民大衆を動かす根幹の力となるものである。從つて之等農村無產者が社會主義に對し受容力と理解力とを有することはやがて彼等が農民大衆を社會主義的に動かし得ることを物語るものである。即ち之は一面窮乏農民の實生活が社會主義の主張を正當に容認し裏書する所以である吾々は之を思ふ時將來に於ける農村の天地を仰いで愉悅の念を禁じ得ない。

之を要するに農村が社會運動上、その決定力を有することは明白である。然るに農村に於て在郷軍人會と官製靑年團とは保守と反動の團體となり無產農民の咽喉を扼してゐるの現狀である。だが、階級意識に目覺めた、そして勇敢な戰士たちの活動によつて、反動的傾向の團體を內部より崩壊せしめ或は、其の力向を階級鬪爭の進路へ導くのも遠い將來ではあるまい。

五監通信

—市ヶ谷だより—

浦田武雄

先日諸君の澤山の手紙が入り、亦眞柄さんが面會に來てくれたので七ヶ月振りで色々外の樣子もわかつた。此間種々の變化があつた事を思ふ。只さへ動搖してゐる今日の社會にあの大震で、社會にも個人にも著しき變轉を來した事だらう。震災の際の同志諸君の苦難は言語に絕したらう。殊に南葛の諸君の遭難は痛恨の至りである。單調なる獄中生活にも變化が多かつた。特に僕にとりて忘れ難き一事は川崎君の死だ。——中略、

川崎君の最近の業事は日本の鑛山の發達史と、勞資の關係を科學的に研究する事だ忙しい中にも材料を蒐めてゐた亦昨年支那京滿鐵道の同盟罷工から、支那に於ける勞働立法運動に注目して、それから續けて勞働立法運動に對する吾々の態度を如何にすべきかを考へてゐたが、最近獄中で僕と二人で勞働立法運動の必要を確信するに至つた。若し今後之等の運動の方向を促進するに至るならば、川崎君は最も先鋒を爲す考である。川崎君は亦、最近獄中で「レニン論文集」を熟讀して、レニンが單なる左傾主義者でなく平和時に於けるあらゆる合法の手段の獲得の必要を力說してゐる事を認め神經的左傾思想を批判してゐた。川崎君は何を創造しつゝあつたか？川崎君の事業を繼承して行く事は出來ないまでも一部でも遂げたいものだと思つてゐる。

今度の議會で普通選擧が或は一部分ものになるかもしれないと思ふ。何故なれば、此度の內閣程遠慮なく何事でも斷行する事の出來る內閣は曾てないから、若し普選が實施されたれば、農民の方の運動に一轉起を來す事と思ふ。非常に注意すべき事と思ふ。兎に角無產階級の政治的勢力を伸張する事は何より必要だ。僕は普選の實現を確信を以て歡迎する。又勞働黨の必要を痛切に感ずる。それは從來吾々が考へてゐた樣な純粹な理論的構成を伴はなくともよい否實際に於いては事實が主に指導する、吾々は現實に理解する事が必要だ。それが爲めに調査が何より必要だ民衆の實際生活の上に基づいて理論を建設せねばならぬ。（下略）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會運動者と官憲の取締（一）

布施辰治

一、はしかき

司法的威嚇の嚴罰立法と警務的惡辣の殘忍苛察を以て社會主義對策としてゐる、時の爲政者ほど愚なものはありません。殷鑑遠からず帝政露國の末期を見よです。

司法的嚴罰と法の威嚇は、社會主義者の反抗に油を注ぎ警務的惡辣の奇察は、運動の功妙を工夫せしむるのみである事は、古今東西、其の軌を一にして、未だ其の例外のあつた試めしを聞きません。

我國、近來の社會主義對策が、變災直後のドサクサ紛れの所謂過激法案なる治安維持令の非常立法を見ても、一層警務的惡辣の苛察に趨かんとすることを知り得るのであります。

依つて、私は、こゝに一は當局官憲に、左樣した社會主義對策の反省を求め、一は、社會主義者に人權保險の自衛を備へしめんとし、社會主義者と官憲の取締りといふ事に就て、聊か調査いたしました意見を述べて見たいと思ひます。併し此の問題の範圍は餘程廣いものですから、こゝでは特に、社會主義者の取締りー直接の衝に當る警察官の爲に、社會運動家と警察官とが相互に考へて頂きたいと思ふ事項丈けを限りで申上げます。換言すれば、社會運動家と警察官憲とは、今後の社會運動に對して、如何なる態度と覺悟を有たねばならぬかを御話したい。

今日までの警察官憲と社會運動者とは、兎角に意思の疏通を缺き、亦、互ひに感情を傷ひ合つた鬪ひを戰ひつゝあつたのであります、隨つて今後も又、然かあるべしと云ふ假定の下に、其の覺悟と用意とを說くのであります、が、しかし、社會運動者は元より人生の徹底思潮に其の立脚地を置くのでありますし、一方警察官憲と雖も、同じく人である以上、時に人生の本然に立ち還る眞理の欲求者として互に握手することが無いとも限らないのでありますが、果して、社會運動者と警察官憲の握手する時代ありとせば、現に取締られつゝある人と取締りつゝある人との間に於て何れから何れへ眞の共鳴と了解とを得る道が通ずるのであらうか、此の問題に對する二三の注意點をも序に述べて見たいのであります。

二、ブラックリスト

私は、私の見聞して居る事實に基き、其の一段一節を述べながら、此の事實に對する私の意見を加へて行きたいと思ひます、先づ社會運動者に對する官憲直接の取締として今日警察の行ひつゝあることは、要視察人即危險人物として、黑表に登錄するのが、其の第一段であります、この黑表登錄とは、つまり何か惡事のみをしそうな人間だと獨斷して危險視するのでありますモット詳言すれば、思想の危險、行爲の危險等を氣遣つて其の人物の一擧一動に、特段の注意警戒を拂ふのでありますず、然らば、其の形式は如何にするか、即ち要視察人としての黑表登錄をした後に、如何なる取締を爲すかと云ふ事は、自ら二つに分れて行くのであります。

第一に、如何なる方法によつて、要視察人としての黑表登錄をするかと云ふに、何時頃からと云ふ年代は明かに判りませんが、各警察署には、其の所管內の居住人民に就て視察上の種類を分つた帳簿が出來て居るらしいのであります、其の中以前は舊刑法による時に刑の監視制度勵行の爲に之を作製したのと、一つは警察の犯罪搜查に就て、岡ッ時代の目星檢擧を行ふ爲に、平生ノラクラして居るやうな前科者の氏名を止めて居つたのが、段々と進化して、後には所謂高等警察としての政治問題、思想問題等に付て、時の政府の施設を攻擊し、若しくは、時の政府の好まざる思想傾向を強調せんとする者に對して、特段の注意をする爲に、所謂要視察人としての黑表登錄をする事に爲つたらしい。

先づ時の政府を攻擊する目的を以て出來た雜誌、若くは時の政府の好まざる思想傾向を強調する雜誌等の關係者は勿論、之を講讀する讀者をも取調べて、其の講讀者中、平生の言動より察して運動家の氣脈を有する者を黑表に登錄するのであります。

次は、前に述べたやうな、政治乃至は思想上の演說會等や、何々主義者と稱する者の家に屢々出入する者とか、頻繁に手紙を交換する者とかに注意して居つて、其れ等の人物の平生を調査し、前同樣幾分なりとも、運動的の氣魄を有する者を黑表に登錄せらるべき人物なりと定めるのであります。

さて、斯くの如く詮衡も終り登錄も濟みたる後は、如何なる取締方を爲すやと云へば夫れは決して正しき意味の取締りに非ずして、寧ろ、其等の人達に對する生活の壓迫、感情の殘賊等、總ゆる不都合を極めるが如くに考へられるのであります、事實としての例を申せば、先づ一番ヤサシイ所で本人に知れない樣に其の旅行先若くは、來往者に就て陰ながら注意を拂ひ、一歩を進めば、直接本人の所へ月に一回、或は二回、甚だしきに至つては、毎日の如くに訪問して、他との交渉來往を確かめるが如き事をるのであります、が、しかし、如斯き訪問視察によつて、如何に要視察人の言動を確かめんと致しましても、其れは不可能なる事であります、何人と雖も、あまりに煩さき訪問に厭氣をさゝない譯はありません一般の人に餘り喜ばれざる警察官憲の煩く訪問する事に對

して、敢て好感を持つ者はないのでありますから、如何に煩く訪問し、如何にしつこく聞き訊しても分かりやう筈はないのであります、此處に於て、頑迷なる警察官憲の今日の遣り方は、一層の事、其人をして何事をもさせないやうに、其の活動を邪魔する爲に訪問して長居すると云ふやうな事をするのであります、斯くして、社會運動者と警察官憲の間に醸さるゝ衝突の事例は、後ちに申上げます、其他近隣知己友人等に煩く本人の行動を訊き、若くは、其の行動に付て、偏頗なる批判を加へて、遠巻きに其の行動を牽制するが如き事をも爲すのであります、而して、此の批評や調査によつての行動牽制が、其の度を過ぐる爲に、根もなき中傷讒誣となつて、社會運動者を苦めて居るのが、所謂要視察黒表登錄の取締りであります。

三、黒表登錄は人權蹂躙なり

以上述べたる處は、要するに、社會運動者に對する警察官憲取締の第一種でありますが、斯の如き取締りは、元より社會運動者の大に苦痛とし不快とする所であります、其の思想を壓迫せられ、其の生活を破壞せられんとする不安に襲はれ、亦美はしき人間としての感情を害されんとする要視察人としての黒表登錄や之に基く視察取締を喜ぶ者のない事は、自然の事理であります、又、此のはき取締を社會運動者に加へて居る警察官としても、人としての本然に立つて、自ら思想の自由を喜ぶものであるならば、他に對する思想の壓迫を喜ぶ筈はないのであります。又、自己の生活に安定保證を求むる者であるならば、他人の生活の安定を破壞せんとするが如き事の出來やう筈はありませぬ、更らに、美はしき感情を有する人間として、其人間的感情を誇らんとする者であるならば他人も亦左樣した美はしき感情の所有者たる事を喜ぶのが當然であつて、他の不快を顧みず其の感情を喜ぶが如き筈はないのであります、之を要するに、以上擧げたる要視察人としての黒表登錄の如きは視察せらるゝ者も登錄せらる者も、又、必ずや不快なる事に相違ないのであります。が、しかし、法治主義を採れる立、憲治下の國民として、所謂立憲政治が政治形式なるや否や所謂法治主義が果して完全なるものなるや否やに就て疑あり、迷ありと致しましても、今日の處、社會運動者に對する、斯樣な取締方法が法律上許されて居るものだとすれば其は法律を改正せざる限り、如何に取締らるゝ者が不快であり、如何に取締るものが厭であつても、其れは餘儀なき事であります、併し乍ら、私の研究によれば、社會運動者に對する黒表登錄の特別視察は、司法警察として考へても亦、行政警察として考へても共に何等の法律的根據を有せざるが如く信ぜらるゝのであります、果して然らば、法律上何等の根據なくして、或種の人物を危險扱ひすることは一種の人權蹂躙なりと云はなければ爲らないのではありますまいか。

四、不適法なる審問

憲法第二十三條によれば、「日本臣民は法律に依るに非ずして逮捕監禁審問處罰を受くることなし」と云ふ人權を保證されて居るのでありますが、先づ黒表登錄の人物詮衡として、或種雜誌の購讀調べをするが如きは廣い意味での審問である、やさしく「あなたは何んな雜誌を御讀みに爲つて居りますか」と云へば、敢て之を審問と解するを得ずして之を不法に非ずと云ふ者があるかも知れませんが、如何に言葉が優しくとも、亦、如何に叮嚀であつても、其の目的にして一種の反法性を豫斷した危險扱ひの人物詮衡の爲めなりとするならば、其れは明かに審問であります、もつとも之を今日の警察官憲に云はしたなら、強ゐて聞きはしないと云ふでせう、任意に答辯を求めて任意に答へをしたる者の中より之を詮衡して視察官吏の參考にするのだと云ふのでせう、けれども、今日の警察官か或人に對して如何なる雜誌を讀むやと質問する事が、既に一種の威壓であり、答辯の強制であります、今日の如く、官憲の威力が大にして且つ專横にわたり易い狀態にあつては、私共一般人民の中で、彼等の求むる所に添はず、望む處にも應じないと云ふ自由を保持する者が幾何あるか問題であります、故に、今日の官憲としては、法律上明かに訊く事を許されて居ない事項に就ては、直に民衆の自由を尊重して、之を問はざるに如くはないのであります、然るに、之を無視して雜誌の購讀者に或種の答辯を強制するが如きは、やかましく云へば憲法違反であるから憲法上臣民の權利即ち人權として保證せられたる自由を傷害する事になるのであります

一苦言

羽生　三七

一體一つの運動を起すのに土地の情況、既成青年團の傾向等を知らずして起すことが無理なやうに、やはり暫くの間は一定の所におちついて居なくて思ふ樣な仕事の出來る譯が無いと思ふのです。

どこの地方も中々進まぬやうですが、それは要するに、その地方から主義者とにらまれてゐるやうな人が頭から、「何々同盟」と云ふ風におつかぶせるので、仕事が進まぬのだと思ひます。その前に無名の青年（主義者と世間から注目されて居らぬ）を集めてその青年の手によつて仕事しなければ駄目だと思ひます。他地方は兎に角、我が下伊那でも今日まではよい成績をあげることが出來たのですが、近來やゝ元氣かにぶつたやうです。私達としてもこの傾向は何に原因してゐるかをよく調査して、士氣振興の實をあげなければならぬと思ひます。

經濟問題

震災好景氣論に含む資本主義經濟の矛盾

高橋龜吉

一

震災で數十億の財を破壞し燒失した結果、それで我が國は『好景氣になると』誰れも之れを聞いて、自分の耳を疑はざるを得まい。そんなことが事實なら、何も苦しむことはない。經濟政策の秘訣は財を破壞し燒失すればよい」と謂ふことになるではないか。併し乍ら、理窟は後で述べるとして、今や震災景氣が出現すると謂ふことに對しては實際經濟家及實業家の意見は殆んど一致してゐると見てよい。唯だ問題となつてゐるのは、果して、それが何時頃から起るかと謂ふことである。

處で、等しく震災景氣が出現すると見る者の中にも、之れが今日の經濟組織からは必要だと見る者と、いや、好景氣になる理由は少しもない、若し景氣が出ればそれは投機から來たところの基礎のない空景氣なのであるから、之れを撲滅しなくてはならないと論ずる者とがある。後者の一例として十二月一日の大阪朝日新聞の社說『變態景氣撲滅の急務』中の一部分を紹介する

「前略」此まゝにして推移せんか、變態景氣の出現は遂に免かれ能はないであらう。然し深く考ふる迄もなく、震災後の我財界には好轉すべき何等の理由も存在しない。或る人々は復興事業と好景氣とを結びつけやうとしてゐるが此の復興事業なるものは、大體に於て資本の不生産的或は消極的消費であることを忘れてはならぬ。京濱の復興成りとして其の結果は如何。數億或は十數億の資本の固定ではないか、羅災者の立場から見ると資本の破壞或は借金の增加である、ある種復興事業によりて利益を得るものがあらう。然れども此利益は一方矢はれたるものを得たるに止まると言つて大過ない。日本の全體から言ふと富の生産ではなくして富の移動、或は轉換である。斯の如く薄弱なる理由によりて起りたる財界の景氣は到底永續し得るものでない、況んや、他に財界を壓迫すべき幾多の悲觀材料あるに於てをや、「中略」之を要するに震災は決して我財界に好景氣を持ち來るものでない。若し地震によりて景氣か好くなるものならば、國家隆昌の秘訣は家を燒き人を殺すにありと言はねばなるまい。世人が資本の或は富の轉換に刺戟されたる空景氣を本景氣なりと感違ひを爲して盲動せんか、我財界を再び大正九年三月の不健全な狀態に逆轉せしめ、再び深刻なる不景氣の蒔き直しをやる樣なものである。我が財界樹て直しの大計は、今日も震災前とは同樣或は更に一層物價の調節に努力し、以て輸出貿易を促進し、國民全體の購買力を增進せしむるの外にない。吾人は此處に變態景氣撲滅の急務を絕叫する』

二

若しも今日の經濟組織が、眞に吾々の社會的福祉にピッタリと一致した機能を有するものであるから、確かに大朝紙の社說によつて代表せらるゝ人々の見方が正當である。又、「斯くあらねばならぬ」と謂ふ立場から見るならば、震災の結果好景氣が出現するなんて大それたことはあり得ないことである。併し乍ら、歷史は常に斯樣な場合には好景氣を出してゐる。近い例が同じく財を破壞燒失した歐洲戰爭の場合を見ればよい。單に非交戰國の諸國に於てのみではなく、交戰國內自身に於ても好景氣に見舞はれてゐる。米國の南北戰爭の當時も、米國は異常の好景氣に襲はれたのである。當時有名なヘンリー、ジョージ氏は之を評して次の如く論じたことがある、曰く『此の好景氣は或は一時的虛僞の景氣だと評す者があるが、事實は決して虛僞ではなかつた。人々は確かに生活を豐かにし、そして戰爭の終りには戰前に比し明かに多くの實質的富を北部諸洲に殘した。一面に於て多數の勞力物資をば戰場に於て空費しながら、他面却つて平時よりも國富を增加したことは不思議な樣で決して不思議ではない。平時に於ては景氣不景氣の波にもまれて空しく遊んでゐる勞力機械が、戰時に於ては最高度まで働かせられて、ために戰場の浪費を補つて尙ほ餘裕を生ずるに至つたのだ』

三

地震や戰爭によつて財が破壞され、燒失した結果好景氣が出現すると謂へば、如何にも不思議に聞えるが、實は、今日の經濟組織に就ては、吾々は日常それを平氣で認めてゐることがある。不景氣の襲來が卽ちそれだ。成る程、不景氣は地震や戰爭の如く、積極的に財を破壞も燒失もしない。併し乍ら、工場を閉鎖し勞力を遊ばして生産を大仕掛に中止する。之れとりもなほさず消極的な財の大破壞である。而して、財の日夜生産される量に比すれば、已存せる財の量は以外に小なるものである、卽ち、生産の中止は、地震に由る存財の破壞よりも寧ろ大なる場合が多いのであ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る。不景氣の場合には、斯様な財の消極的大破壊をやつて後ち、初めて好景氣が出ると謂ふことは經濟學の初歩をやつただけの人でも知つてゐることである。何故であらう。其の理由は地震や戰爭によつて、財の破壊消滅の結果好景氣の出現するのと本質に於て少しも違はない筈である。之についてベラミーは此の理由を説明するに左の如き面白い喩を以てした。

「或る處に水の少い國があつた。人民は朝から晩まで、皆んな、それ／＼谷川から水を汲んで來て飮んでゐた。處が或る時、王様は布告して曰く、今後谷川を一切王様の所有にする。今後人民は勝手に水を汲んではならない。併しながら其の代りに、王様のために水を汲んで來るものには一桶十錢づゝの賃金を支拂ふ。と
そこで、人民は皆な朝から晩まで谷川に行つて水を汲んで其の代りに王様から十錢宛の賃金を頂いで喜んで家に歸りそれを毎日の仕事にして居た王様はその水を大きな水槽に皆な入れさした。

『併し人民は水を飮まねば一日も生きて行くことは出來ない、處で、水を飮むためには王様の水槽から分けてもらふ外にない。王様はこれを一桶二十錢づゝに賣つて、一桶で十錢づゝ儲けることにした。斯様に、人民は一桶の水を汲んで來て、半桶の水を買ひ戻すだけの賃銀しか戴いてゐないのだから半桶宛の水は水槽に貯へられて行つた。その中に、その水槽は間もなく一杯になつて了つた、そこで王様は、風呂を立てたり、池を作つたり、噴水を拵へたりして色々と水を使つたが、どうしても使へ切れぬので、水はとう／＼水槽から溢れ出して來た。さあ大變なことになつた。

「そこで王様は人民を集めて謂つた、曰く、水は此の通り水槽に溢れてゐるが買手はない。此の上汲んで來てもらつても仕方がないから、水槽が空くまでお前達皆んな休んでゐてもらいたい、と、之を聞いて人民は失望した。斯うなると人民は最早や王様の水槽から水を買ふ代も稼ぐことは出來ない、從つて水を買ふわけにも行かない。皆んなの生活は苦しくなつて來た、不景氣が來たのだ、

『その中、王様は水槽の水を大底使つて仕舞つた。底の方は孑孑が湧いたので捨てゝ仕舞つたのもある。即ち、水と謂ふ財は人民の遊食（不景氣による）によつて消極的にる壊されて消滅したのである。かうなると、人民は再び王様のために水を汲んで働いて、一桶十錢の賃銀を戴いては、二十錢で買戻して樂に生活が出來るやうになる。セツセと働いて腹一杯水を飮むことが出來る。即ち好景氣が來たのだ。」

解説する迄もないが、右の喩の王様は資本家階級であり人民は勞働者で、水は商品であり財である。

青年運動の研究

青年運動の方向

大川勘助

青年運動は、一般無産青年の大衆の無産階級的教育運動であり、廣汎なる大衆運動でなければならぬ「大衆へ！大衆へ！」と叫ばれたにも拘らず、實際は極めて少數革命分子の間のみの運動となり、危險極まる運動として一般無産大衆から畏怖された感がある

少數の進歩した分子が、運動の先頭に立ちて其の前衛たることは、總ての運動の通例の形態である。しかし之れに一般の大衆が續くことによつて、始めて意義がある。

日本の青年の大部分は、無産階級の青年であるといつて差支へなからう。ところが、日本の無産青年の進歩分子が始めて自分の地位に醒めて、自分のための解放の運動を始めたとき、まだ／＼一般の青年大衆は相變らず夢の中に在つた。そして未だに恐らく斯く言ふことが大きな過ちではあるまい。

そこで日本の青年運動は、更に進んで第二段の運動に入らなければならぬ。それは言ふまでもなく、本隊の組織であり、その啓蒙運動である。

實際に日本の青年の現狀を考へて見るがいい。青年の大部け農村にあつて、父祖傳來の農業にいそしんでゐる。そして多く青年團に組織せられ其の指導者たる封建分子の思想的支配下に止まつてゐる。無産階級的思想に接し自分の地位に醒める機會を奪はれてゐる。

具體的にいへば、彼れ等の青年團の仕事は、十年一日の如く、其の教へられるところは『剛健質實』といつたやうなことであり、實際の仕事は、神社の庭掃きか何かの『社會奉仕』である。そして斯やうな仕事が、彼れ等にとつて如何に意義のないものであるかを知らない。

だから吾々の仕事は、斯やうな青年の大衆を一歩づつ教育して、彼れ等の思想を啓蒙し、次第に眞實に自分の地位を悟らせねばならぬ。

此の運動は、一朝一夕にして効果を收めることは困難であらう。然しあらゆる運動に斯かる困難の伴ふのは、寧ろ當然と思はなければなるまい

農村の青年は、農村の青年として自分の立場を發り、勞働青年は勞働青年として自分を立場を發り、水平青年は水平青年として自分の立場を發り、學生は學生として自分の地位を知り、そこに大衆的の團結が生れるとき、日本の青年運働は、青年運動としての眞實に確實に健實な一歩が踏み出されるのである。

入獄中と出獄後の感想

獄中の川崎憲次郎

田所輝

六月五日の「暁の大手入れ」で僕も收監された。僕は、四監の運動場に面した側の監房に居つたためで、よく運動場に出てくる同志に對して、看守に叱られ乍ら、よく窓からのぞいて、手を振つたり、セキ拂びを交はしたものだ。川崎は運動場へ出て來なかつたもんだから、川崎かこゝに居るのは氣が附かなかつた。僕等が運動場へ行くときは病監の見える路を通るのだが、同志の一人の橋浦君が運動に出るとき、いつも物淋し相に誰か居るかの如く病監の方をみつめ乍ら歩いて行く、橋浦君の様子に氣がつゐてから、僕もいつも病院に注意するやうになつた。

居た！ゐた！八月のある日運動場へ行くとき病監の方を見ると、川崎が立つて深呼吸をしてゐた。ガラス越しに、互にニツコリ笑ひ手を振つて交驩した。その後は、毎日運動場の往き戻りに、病監注目を缺かしたことが無かつたがついぞ彼の顔を見かけなかつた。

九月一日の地震の時、囚人が全部監房から監獄の後庭に出された、僕等の連中も一所にかたまつて、互の健康を祝した。僕はその日は丁度豫審廷に出て居たので、その日は彼に會へなかつた。川崎は病監の避難地に歸へつてゐたが殘りの、十九人は一再に陣取つて、喉を刺す外氣の中に、赤煉瓦の彼方の惡魔のやうにむれてる噴煙と、天を燒く火を眺めながら、感慨の夜をむさぼるやうな久濶漫談の中に徹した。その疲勞の爲めか、二日の朝「政」が卒倒したその爲にお爺さんや上田や「徳」さんが大分奔走してゐた。その時川崎が裸足で土の上をヒヨロヽヽし乍ら政の見舞にやつて來た。僕も裸足で小走りに近ついて握手した。

「オイ！體はどうだ？」

「大分好い方だ……」

「肺か？……」

「……さうでもないらしい」

「病監はいゝかね」

「明るくていくらかいゝさ」

「この間誰か死んだらう？」

「うんあれは銀貨僞造の支那人だよ。何んでも絶食したのだそうだ。僕は絶食同盟をやつたのかと思つて感心して居たが、よく聞いて見ると罪の恐ろしさに絶食したのだ相だもろいものだよ。十七日目に參つてしまつた　。そしてその片づけ方の簡單たらないんだ。屍を棺に入れると、間もなく大學から車がカラカラとやつて來んだ。そしてそれに積んで假門から出て行つたよ……」

九月の六日に八監と四監の獨房がやめられて、僕達の連中は皆五監に集中せられた。そのとき川崎も轉房して來て二十二房の曾根君と二十四房の浦田君に挾まれて、二十三房に納まつた。初めは仲々に元氣らしかつたが、後は運動（當時運動場が地震で壞れたので、監房の前の通道の夕、キの上を七分三十秒歩くのが運動であつた）にも出來なくなつた。そして醫者がやつて來て牛乳を毎日一合宛給與するやうになつたらしい（川崎は暁民共産黨事件の既決囚であつたから、差入が許されない。で病氣がよくヽヽ惡くなると、最大唯一の滋養分として牛乳を與へるらしい）

九月の末に彼は今度の共産黨事件にも連類として起訴された。同時に六監の方に轉房して行つた、彼の監房は六監の五監に面した方だつたから時々窓から互に顔を見合はすことが出來た、當時は元氣を恢復して居たらしく、天氣のいゝ朝などには窓の鐵棒につかまつて運動し乍ら「民衆の旗……」などと吟んでゐた

十月の三日になつて裁判も始つたし、四監八監の獨房も復活したので、またぞろ轉房が始つて、大部分が四監の方へ行つた、そのとき川崎は五監の四房に還つて來た、僕は六房に居た、

その頃は餘程惡つたと見へて、運動にも出なかつた、あまり心配なので犯則ではあるが窓口へ出てゝ「川崎！川崎！……四房！四房！……一八八號！一八八號！……」と毎日のやうに看守の隙をねらつて呼んだが返事がなかつた。

どうした加減か十月の十二三日に、彼は運動に出た。そして聞く人の胸をえぐるやうな空咳をし乍ら「オイチニ、オイチニ」と元氣らしく、七分三十秒歩いてゐた。その夕方、今日こそ彼を是非呼び出してやらうと思つて、懲罰を覺悟して大聲で「川崎……………」と呼んだら、返事があつた。

「アー……」

「病氣はどうだ……」

「大分良い方だ……」

「ずつと前から何度も呼んだんだぜ、聞えなかつたのか」

「うん。寒いから窓を閉めてゐたからね」

「二房には西君がゐる。二十三房には渡政がゐるよ……」

僕はまだ話を續けやうとしたら、どうしたのか、看守に叱かられたのか、それとも急

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に苦しくなつたのか、彼はそのまゝ窓を閉めて了つた。

翌朝は天氣のいゝ日だつた僕は日課に從つて、窓側に立つて深呼吸をしてゐると、こんどは川崎から呼び出しをかけた。

『オイ六番…お早やう』

『お早う。今日は具合はどうだえ？』

『ウン非常にいゝんだ』

『あのね、××に××へ行つたよ。そしたら×××××も××されてたよ』

『××の樣子はどうだ』

『殘念乍ら××と同じだ』

『仕方がないね。殘念だね』

『僕は本がなくつて困つてる君は今何を讀んでる？』

『ウン、此頃は讀書を餘りやらない、この間「レーニン論文集を讀んだが、譯が生硬で面白くなかつた……』

そのとき僕は看守に知られたので、話をそれ限りで止めた。思へば、これが彼との最後の會話だつたのだ。

その後彼は運動にも出なくなつた通り一週の監獄醫も彼だけには、仲々注意深くやつてゐたらしい。ある日僕の監房の前で庶務長が看守にかふ囁いてゐた。

『四房は大分惡いやうだから牛乳が來たらすぐやつて下さい。それからお粥や汁も少しでも溫い方がいゝから、來たら直ぐやつて下さい』と。

十月の二十日頃になると、もうたてなくなつたのだらふ便器も持出さずに雜役が代つて持出してゐた。そしてその頃から呻りつゞけてゐた。

惡くもなるさ。未決囚の僕達には衣服も入るし、寢具は同じでも、室には曲りなりにでも疊もあるが、川崎は既決だから、板の間にゴザを一枚敷いて、九月の末まではその上に更らにゴザを一枚敷いてそれを敷布團にして上からセンベイ布團をかけて寢るのだ未決の僕達でさへ、このゴザの敷布團とセンベイ布團には風邪をひいたのだもの。朝晩牛乳が一合づゝ來た所で飯は南京米のお粥で、副食物は僕等と同じ朝晩は空汁で、晝は大根や芋のにたのだもの。僕等は未決だから、一度でも差入もあるから社會の米飯を食べるが、彼れが出來ないのだから、病氣の性質上惡るくなるより仕方がないのだ。

川崎の室は一つ置いて隣りたから、一切が聞えて來る。夜などはその呻り聲と咳とは胸に喰び入るやうで、とても寢られなかつた。

九月の二十三日、川崎は病監へ行つた。その時看守が立つやうに云つたが、何んでも、『立てません』と云つてゐたらしい。そして擔荷に乘せられて行つた。そして遂に十一月の十二日に死んだのだ。

出てから聞いて見ると、危篤になつたとき醫者は『誰か一番親密な友人に會つたらよからふ。誰だ』と聞いたら、『浦田を呼んでくれ』と云つた相だ。そして浦田が行つたら『今は苦しいから、も少し樂になつたら話さう』と云つた。浦田は看病を許してくれと賴んだが、それは遂に許さなかつたさうた。次に浦田が行つた時は、既に死んでゐたさうた。

十一月の十二日、市ケ谷監獄の死刑臺の側の寒い病監で百八十八號の襟番號のついた赤衣をきたまゝたつた獨りぼつちで、二十三才の同志川崎悉次郎は死んだ』

川崎は大人しい 男たつた

遅ればせの入獄

川内唯彦

十一月七日に代々幡の中澤氏の所へ行くと何の意味か分らず、正私服、數十人が家を取り廻した。そして警察まで來て吳れといふ。今頃何の騷ぎをやるのかと全く腑に落ちなかつた。

淀橋署に引張つて行かれると警視廳の特高課長の奴『よく上京して吳れた、わざ〱九州まで逮捕に行く所だつた』と吐した。

此の淀橋署は大杉氏等の虐殺を敎唆した高等係のゐる所なのだ。僕の拘留されてゐる時も奴等の鼻息の餘威はまだ餘つてゐた。

一體、大杉夫妻にしろ、龜井戸で殺された同志諸君にしろ、如何いふ風に、如何いふ手段を以て虐殺されたかまた僕等には分らぬ。

甘粕なんかの法廷に於ける陳述なごを信用してたまるものか。唯僕は後で聞いた事だか、此の同じ淀橋署で演ぜられた一齣から有力な暗示が與えられる事件を知つてゐる。

僕の知人長谷川君は地震當時、失張り社會主義者として淀橋に引張られた。その時この高等主任の松元と外一名の內鮮係は彼を二階に連れて行つてサーベルと日本刀で斬つけて來た。幸、その時に遮ぎる者があつて命だけは助つたこれが丁度七日頃の話である『大杉を連れて來て貴樣と一緖に殺してやる』『社會主義者を殺すのはこんな時に限る、今に軍隊に引渡してやる』奴等はその時こんな言葉を吐いたと大杉氏のやられたのが十六日だとすれば奴等の腹案は最早やチヤンと此の頃からあつたのだ。

話はだいぶん橫へ飛んだが其の後僕は青山署、警視廳と流轉して十一月廿五日遂に所謂『共產黨』事件の連累として市ケ谷へ送られた。そして十二月廿六日再びシヤバに出て來て見ると間もなく山本內閣が辭職して、貴族中心の特權內閣が出來てゐた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

地震當時の獄中の空氣

小岩井淨

市ケ谷刑務所の四ケ月、此れは普通の時なら何でもない事だ。唯私の入監したのは八月末の事で、間もなくあの大地震に遭遇したのでいつもとは變つてゐた、尤も外に居たら猶更強いショックやいろいろな感想を得てゐたかも知らない。

あの大地震の時は囚人は未決も既決も幼年も皆監房から出された、そして六監と七監との間の芝原に集つてゐた。大地は時々もの凄く鳴り搖いた餘震は時々來た、けれど私等は心配や驚愕や、恐怖の感よりも、すべてが全く夢の樣だつた。殊に想だにしなかつた身體の自由をえて、いつも眺めてゐた芝原にごろりと橫になつたときは心悦れしくさえあつた。東京全市が大火に包まれてゐる。夜になるにつれて天は益々赤くなつてゆく。社會の混亂は想像はしたもののまだそれほどには思はなかつた。

地震の翌日は朝から天氣だつた。私はいろんな囚人達と話す事が愉快だつた。彼等は私の共犯の人達などを「主義者」「々々」といつてゐた。之は監獄に始まつたことではないが、まるで普通の人間と隔たりのある特別な人間扱ひをしてゐるのは私にとつて不愉快な事だつた。此日は芝原で囚人大會があつた。各監から代表者を出して典獄に「解放」を交渉するといふのだ。勿論こんな交渉が許容さるべくもない、併かし典獄は何とか骨を折るといふ返答は與へたらしい。囚人一般の空氣は昨日とは變つて來た事が看取される。そのうちに一人の交渉委員が報告演説を始めた。監獄と社會とを仕切る高い赤煉瓦塀の外では何となく不安な人々の叫び聲などがきこえてゐる、見よ、南の空は眞紅に焦げてゐる。囚人達は水を打つた樣に靜まり返へつて、この委員の報告に耳を傾けてゐた。

いつの間にか監獄には銃劍をつけた軍隊がやつて來てゐた。そしてその夜、所謂社會主義者勞働運動者は重罪犯人と同樣に眞先きに手錠をはめられた。

看守達は囚人の取扱には弱つたらしい。三日の午後から雨になつたので、全部監房の中にはいつた、さあこうなると看守達は全然態度を一變した。今迄はなだめすかしてゐた。今度は誰かまわず囚人に當り散す。ずいぶんひどい事もしたらしい、社會主義者に對しては囚人達を煽動してさわがしたのだと頭からきめこんでゐた。五日の夕刻主として私達の共犯が五監へ轉監させられた。この日は全監に大轉房が行はれたのだが銃劍の軍隊が中央に並列してゐた看守達は無茶苦茶な橫暴ぶりを發揮した、一寸した事をつかまへて一人が苦情を言ひ出す、忽ち十數名の看守達が四方から驅けつけて、打つ蹴る踏みつける。實際慘虐な事をやる。私達の共犯の中にも、それこそ何等の理由なくしてこんな目にあつたものがあつた相だ。銃劍をつけた一列の軍隊と指揮刀を提げた士官とは何をしてゐるんだ。彼等の目前でこんな事が公々然に幾度行はれたかわからない。私も轉房のため歩いて行つたとき二三の人がやられてゐるのを目擊した。私は默つてみてゐる外なかつた。監獄の中に忽ち壓迫と反抗氣分とが鉛の樣に重々しくのしかゝつて來てゐる事が痛切に感じられた

五監の外の畑の中に臨時の炊事場が出來てゐた。赤衣の囚人達が地震後當分のうちそこで炊事をしてゐた。彼等が晝食後なんかいろ〳〵な話をしてゐる。私は自分の監房の窓からぢつとそれをきいてゐた、話は殆ど社會の模樣についてであつた。種々の事情もわかつた「社會主義者が朝鮮人を煽動してひどい事をやつてゐるさうな」こんな事は毎日話頭に上つてゐた。さてはいかにも反感すらもつてゐる樣に「五監にゐる奴等はみんな社會主義者ださうだ」などとも云つてゐた。

私は入監後また書物の差入が許されなかつた。一日中倦怠と戰はなければならなかつた。毎日窓のところから外のゴシツプをきく。そうして想像したり考へこんだりする。

何にも增してピン〳〵と感じさせられた事は社會主義があまりにも不評判であり理解されてゐない事だつた。社會主義がどんなものかは一般の民衆は全く知らない。のみならず何か惡い者の樣にされ曲解してゐる。こんな事で一體いつになつたら日本の無產階級は解放されるのだらう。社會主義は過去の汚點を自ら拭つてほんとに民衆のものにならなくてはならぬ。いろ〳〵の理由もあらう。それは當然である。併かし今迄の所謂社會主義者のある者もたしかに間違つてゐた。彼等は一半の責任を負はなければならない毎日毎日坐りこんで考へる。四疊敷の監房の中を往つたり來たりする頭の中では絕えずこんな事を考へつゞけてゐる隣の部屋からコツ〳〵と壁をたゝいてくる「オイ何んだネ」「あのね大杉がやられたんだ相た。憲兵達に。それから平澤君川合君達七八名が龜戸で銃殺されたさうだ」

窓の外では飛行機がとんでゆく私は又部屋の中を何遍となく往つたり來たりする。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

終局の運命

堺利彦

我々の裁判事件が我々に大なるヘマの結果である事は云ふまでもない。然し我々は、それを又一つの經驗として將來の爲に利用する事と、其のヘマの結果のヘマが加減を成るべく小さくする事とを考へた外、總て出來た事は仕方がないとして、大して深く思ひ煩ひもしなかつた。只だ社會の物騒な樣に、意外な珍事の報導が、チラ〱と獄中に聞えて來た時、その委しい事情や成行が分らないだけに、猶さら大きく不安な氣持がするのであつた。

十二月になつて豫審がまた容易に片づきそうにもないので、私はユックリ腰を落ちつける事になり色々と正月を獄中に迎へる積りをしてゐたが、豫審判事と被告等との間に於ける氣合の加減からして〱ばた〱と運びがつき、年末に迫つて皆がぞろ〱保釋といふ事になつた。それで豫審は恐らく近々の中に終結し、數箇月の中には公判となり、判決となり、刑の執行となるだらう。從つて此の事件は、もう大して問題ではない。

所が、社會に出てから、不在中の事件の委しい話を聞いて見ると、今度は又、獄中で受けたのとは大ぶん違つた、深い感銘を受けた。殊に「何が幸ひになるか分らぬ」もので、お前達は市谷に押しこめられてゐたから助かつたのだといふ話は、獄中で受取つた手紙にもチラホラ書かれてあつたが、戻つて來て見ると、殆んど總ての會ふ人から同じような事を聞かされた。

これは何如にも恐るべき社會現象に相違ない。と云つて我々は今、それをどうする事も出來ない。我々には言論の自由もない、團結の自由もない、自ら防衛すべき武器もない、種々の設備を施すべき財力もない。我々は殘念ながら自分等のまた甚た微力な地位に立たされてある事も明白に認めざるを得ない。只た我々は、我々の運動が歷史進展の必然として、いつかは遂に、(而も餘り遠からずして)全局の勝利を收めつゝ又、大なる希望を將來に持ち得るだけである。そうして、それに向つて現在出來得るだけの步みを進めるだけである。

我々は今後、何如なる運命に遭遇するか知れない。それはどうも仕方がない。一時的の運命、數個人の運命、それは全體としての終局の運命に比すれば、大した問題で無い。

我々の結社は今度の裁判事件で敗れた。我々はそういふ結社の編制が、今後成るべく早き時機に於いて、主義主張を明白に宣言した、公然の運動團體として現はれる事を切望して居る。

勞働組合の運動、小作民の運動、水平社の運動、其の他種々なる進步的の社會運動、私はそれらの諸運動が、この反動勢力の漲る間に於いて、猶ほ能くそれ〲の確乎たる步みを續けて居るのを見て、無限の歡喜を感ずるものである。

次號豫告
一周年記念 特別號
一部十錢

獄中より

(十二月十八日)

中曾根源和

○黒潮の香の高い南の島、二昔前その北寄りの一つの港町に沿ふた常夏の濱邊で、白いハン、チャイ(走蟹を追ひ駈け廻して遊ぶ一人のわらべがあつた。近年頻りに赤いハンザイ(犯罪)のために追ひ廻されて、幾度か高い煉瓦塀の中に押し込められる男がある。今もかうして薄暗い所で葉書を認いて居る男、そいつがあのわらべだ。

○「人類の運命に關系する神聖」なる教育事業の前に、若い教師は敬虔なる捧仕を怠らなかつた。理智の煉瓦と愛のセメントを以て、腕しく偉大な人生の宮殿を築からと力んでゐた。だが素直な心に宿した美しい空想は、直ぐ破られた。當然の話だ。

然し彼は破られた空を修繕すべく南の島と東の都で前後六年ばかり苦しい淋しいそして悲しい戰を續けた。彼はやがてその戰の舞臺面を變へた。否狹い教壇を廣く大きくしただけだ。依然とし同じ戰の繼續である。

○朝も晩も昨日も今日も、遠慮ぢやないが面倒だ。下半が灰色で上が白い。その白い所に南京蟲か蚊をつぶしたのか、何れにしても囚人の血がにじんでゐる。それがはつきりと「レボ」となつてゐる。面白いぢやないか。シレボユウシヨンのレボ、又エスペラントで行けばその儘でレーボ、即ち夢想だ。夢の修繕に堅硬迄來てゐる男に暗示するやうだ。「總てのレーボはレボルシーオに依つて實現する」囚人の血が薄暗い壁に「レボ」とにじむ。詩的な話だね。

○時折り若い學生が珍らしげに見物に廻つて來る。僕はその中からこゝに入つて、被見物者になる資格のある者を物色する事がある。資格審査の標準はかうだ。第一に眞面目な一本氣なこと、第二道德的感じの鋭い事。要するに自分を欺き得ない若者は十分資格がある少くとも赤い罪を犯す素質の重要なものだ。

○年が暮れる。全國の貧乏な同志諸君、諸君は相變らず貧乏ひまなしで忙しからう。だが喜べ、年と共にヨキ時代が近づくのだ。終りに數首閑語句でも並べやう

(「一綱打盡」第百九十三日)

○山はさけ海はあせなん代なりと
　も戀と鎖とで世は移り行く

○古への文見る度に思ふかな世の
　變遷は避けられぬもの

○此の日頃牢屋慣れして吞氣にも
　寄宿舍住ひの學生氣取り

○秋は深し獄屋の庭の朝小徑そぞ
　ろに行けば面白うして

○年の暮れ獄屋の夜のそのしじま
　微かにひゞく蕎麥賣り笛

○夜は寒み獄屋の壁にもたれ居て
　南京蕎麥の熱きを思ふ

○いざさらば步よ今宵もくろがね
　の窓ぬけいでて我妻に行け

編輯の後釜を受けて

○議會が解散となつた。そんなことは初めから豫期されたことではあつたが、反對黨から不信任案が提出されない前に、清浦からギヤク手にやつつけられたとは餘りに既成政黨の首領の目が見にな過ぎる

○どうだアノ解散當時の議事堂附近のモノモノシさよ！あれを見ても政權の移動などといふものは、利合ひに、造作もなくゆけるものかも知れない。兎に角、反對黨の壯士連の直接行動が相當効果を奏してゐるぢやないか。それを見ても、私等が政黨でも有つてゐるか或は有力なるプロレタリアの政治團體でもあつたならば政治的革命とまで行かずとも、相當有効なプロパガンダをやることが出來たらと、ツク〲感じた。まあたとへなまぬるくとも何とか、プロレタリアートの政黨の樹立などといふことを言葉ばかりでなく、本當にものにしたいもんだ。

○今日は二月一日だ、時間は早いもんだ。去年の今日、私はヨフエーの道案内だかお伴だかをして横濱埠頭に上陸したのだがその後の一年は何と多忙であつたらう。凡ての社會的大事件が常に私等同志の身邊を繞つて起きてゐた。少し靜かになつたと思ふたら、今度は私が進め社の編輯へ叩き込まれた。

○今の所、此の反動期に於いて、私等同志の戰鬪雜誌としては進めが、唯一のものだ。その意味によつて、私は全ての小さい事々を一切なげうつてやるつもりだ。生れて初めて雜誌の編輯などといふことをやるのだ。兎に角、編輯をするといふことなどは、私の柄にないことは私自らよく承知してゐるだが、讀者諸君援助叱正と同志諸君の御指導を手頼りに引受けた。

○私等の教師レーニンが一月廿一に死んだ。ブルジョアどもや、その飼犬の反動連は、定めし嬉しいことだらうが、露西亞勞農共和國は基礎がもう安定して、彼の死に依つていささかの動搖も來たさない。そして後に殘つた露西亞のコンムニストは彼の大偉業の完成に大馬力をかけてゐる。私等日本島の同志も此際、苦境を突破して我等の使命に一歩でも進まねばならぬぢやないか。本號はレーニンの偉業を讃辭するために病床にある山川均氏に無理にレーニンに關する一文を草して貰つた。

○英國はマクドナールドが内閣を組織した。彼は私等の主張とは遠く離れてゐるだらうが、世界の外交舞臺が為めに動搖を來すだらう。英國は露西亞を承認したぢやないか。又イタリアのムソルニー政府すら承認したではないか。

○世界の反動の絶頂も或は之で通り超へ得るかも知れない。それを思ふと痛快だ。

○進めは同人雜誌ではあるが、私等の同志諸君の論壇として解放する。だから、社會運動、勞働運動のために、自由に、有効に使用してもらひたい。

○原稿を送つて下さる諸君は必ず編輯部と明記されたい。送金や、原稿が個人宛では事務が取りにくくて甚だ困る。

○今まで編輯をやつて呉れた横田、岡、北原の三氏は今月から編輯室を去つて外部から山出しの私の仕事を助けることになつた。

○私は大阪は初めての地だ。あまり知人もない。が、大阪の同志諸君の了解の下に、私も大いに御交際が願ひたい。

以上をもつて、「進め」編輯の後釜にすわつた挨拶に代へる。

二月一日 田口運藏

會計係より

「進め」の數ある特徴の一つとして定價が安いと云ふ事は定評のある事だ。然るにこの「安い」と云ふ事を逆用して「一部たつた十錢位だから一册や二册はどうでもいいんだらう」と云ふやうなわけで「進め」は常にたゞで貰へるやうに思はれては困る。本社の同人は身も骨も削れるやうな思ひをして努力し雜誌を安く出してゐるのだ。本社ではそんな妙な事なことを云ふ人に對して「たつた十錢位の金だもの拂つてくれてもいいぢやないか」と云ひかへしてやる。

尙毎度乍ら會計係の希望條項として左の通りのことは斷つて置く

一、誌代に關する問合せ、雜誌注文に際して必ず傍書に會計係と附する事。
二、會計用は一切個人宛にせぬ事。
三、本誌は集金郵便を一切取扱はぬ事を承知して貰ひたい。
四、「進め」誌代と他雜誌の誌代とを一緒に送り他社へ殘金は送つてくれと云ふやうな注文は一切扱取ぬ事。
五、住所氏名は明瞭に書くこと。
六、見本注文の方には一部は註文に應ずる。
七、誌代拂込は可成振替にして振替の都合惡き時は五厘及一錢五厘の切手を用ふる事。

○突然田口君から大阪へ來いとの使があつて、何はともあれ下阪して來た。ところが、進めの編輯を手傳へとのことで、一寸面ん喰つたが、六ケ敷い事は、先輩や同志諸君の教へを乞ふ事として引受けた。

○編輯と云つて見た處で、社會運動の走り使ひの役目に過ぎないのだからどし〱諸君が原稿の彈丸を送つてくれれば、それを發射すればいゝのだ。

○それから威力ある彈丸を送つて貰ひ乍ら編輯者の不手際から、短縮せねばならぬ羽目になる事があるが熟練する迄は大目に見て頂きたい

○私も大阪の土地には今迄で縁がなかつた。が、これからは諸君の仲間入れなして頂くことにして、大に駄馬に鞭つて下さい。

○二月號は大變遲れて、讀者諸君に申譯けありません。三月號からは印刷所の都合もよく運んで期日も確實に出る樣になります、

○今日は日本勞働總同盟大會の最終の日だ。進め社の二階から祝辭を呈して置く。

神道久三

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

産前産後
血の道
引風、冷込
等に特効有
●全國到處に販賣す

婦人
喜谷實母散
良薬

本舗
東京京橋區中橋大鋸町
喜谷市右郎衛門

金、銀
白金
東京市神田區松田町
徳力本店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◆社會主義
◆社會問題
◆勞働問題
◆婦人問題

圖書雜誌
販賣

本店 神戸市湊川町二丁目十六番地
上西書店
上西一郎
支店 神戸市湊川公園前百貨店前廿一號

□大阪心齋橋□
大丸呉服店
◆京部四條……神戸元町◆

□大阪長堀橋□
高島屋呉服店
◆京都五條……東京中橋◆

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

現在契約高　四億五千餘萬圓

資産總額　壹億貳百餘萬圓

保險が何故必要でせうか

老後生活に安定が得られますから

家庭の扶養が心配なく出來ますから

子弟の敎育が充分に達せられますから

我が國生命保險會社中で一番大きく確實な會社

保險料が無配當保險より尚低廉且つ多額の配當付

日本生命保險株式會社

本店　大阪市東區今橋心齋橋筋角

電話本局　二三　二四　二五

二〇三六　四二六四　五三三〇

支店　大阪　東京　京都　名古屋

福岡　金澤　仙臺　廣島　京城

□能書を列べる必要のないのが本會出版物の特徴!!

‖最新刊‖

□赤松克麿著 **勞働組合運動** ＝價 九拾錢 送料 壹拾錢

□佐野學著 **農村問題** ＝價 六拾錢 送料 九錢

□三和一男著 **普通選擧** ＝價 九拾錢 送料 壹拾錢

□赤松克麿著 **無産階級の政治行動** ＝價 貳拾錢 送料 貳錢

□安部磯雄著 **土地國有論** ＝價 五拾錢 送料 九錢

‖近刊書‖

□北口一雄著 **街頭の資本論** ＝價 壹圓四拾錢 送料 廿參錢

□山川均 田所照明 共編 **プロレタリア經濟學** ＝價 七拾錢 送料 拾壹錢

科學思想普及會 東京市外高田町二二 振替東京四四 電話三八八

（月刊）
農民運動
（一部十錢）
東京府下日暮里町日暮里三九一 農民運動社
同人 稲村隆一、森崎源吉 平野學、淵田武雄

（月刊）
第一線
（一部十五錢）
長野縣下伊那郡上飯田村四六一七 第一線社
同人 羽生三七、林武雄 宮島義治、安藤重一

（半月刊）
勞働者新聞
（一部五錢）
大阪市北區西野田江成町 勞働者新聞社
日本勞働總同盟 關西同盟會機關紙

（月刊）
青年運動
（一部廿錢）
東京市池袋九三〇 建設者同盟本部
同人 淺沼稲次郎、髙津渡 三宅正一

（月刊）
土地と自由
（一部十錢）
神戸市北本町六丁目二二〇 土地と自由社
行政長蔵 杉山元治郎

大正十三年二月十五日發行 ●毎月一回一日發行 ●定價一部十錢一年一圓
大正十二年一月三十日第三種郵便物認可
發行所 大阪市北區西野田大開町一ノ九二一（振替大阪六九〇七二）進め社

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN